

令和元年度 山梨県ひとり親家庭実態調査 調査結果

1 調査の目的

県内の母子世帯及び父子世帯の実態を把握し、今後の福祉行政諸施策推進のための基礎資料を得ることを目的としています。

調査は、昭和 51 年以降、概ね 5 年に 1 度実施し、今回で 11 回目となります。

*父子世帯については、昭和 59 年度から調査対象としており、今回で9回目となります。

2 調査方法

アンケート調査(配付:市町村窓口 回収:市町村窓口および郵送)

3 調査対象

県内に居住する母子世帯及び父子世帯から無作為に抽出した世帯

4 調査基準日

令和元年8月1日

5 調査の時期

令和元年8月1日から令和元年8月 31 日

6 標本数

3, 726世帯

(うち 母子世帯:3,378 世帯、 父子世帯:348 世帯)

7 有効回収率

71.7%

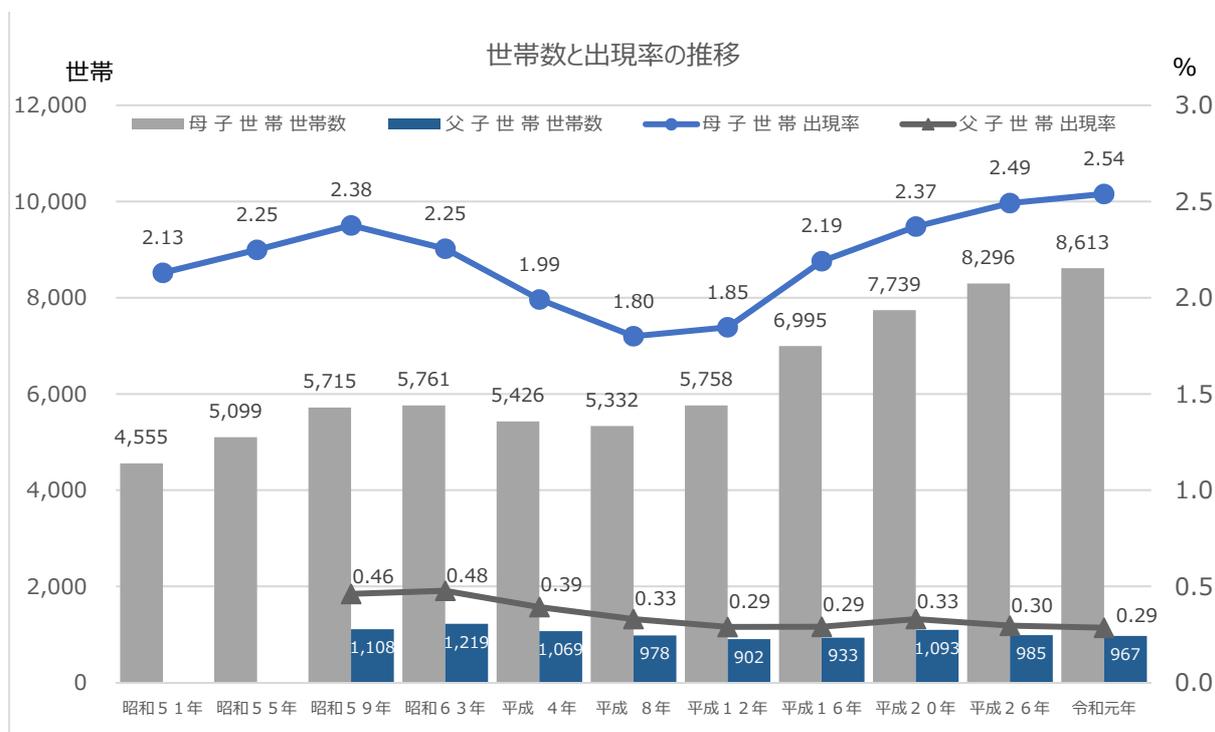
(2, 671 世帯／3, 726 世帯)

1 世帯数と出現率の推移

母子世帯数は増加傾向にあり、8,613世帯と調査開始以来最多となった。前回調査時(平成26年度、以下、「前回」という)から、317世帯増加している。

父子世帯数は微減となり、967世帯で前回より18世帯減少している。

また、総世帯数に占める割合(出現率)は、母子世帯が2.54%、父子世帯が0.29%となり、母子世帯の出現率が増加する一方で父子世帯の出現率が減少する傾向にある。



(単位: 世帯、%)

調査年	調査期日	世帯数	母子世帯		父子世帯		合計	
			世帯数	出現率	世帯数	出現率	世帯数	出現率
昭和51年	S51.9.10	213,853	4,555	2.13	/	/	-	-
昭和55年	S55.9.1	226,682	5,099	2.25	/	/	-	-
昭和59年	S59.8.1	240,517	5,715	2.38	1,108	0.46	6,823	2.84
昭和63年	S63.8.1	255,514	5,761	2.25	1,219	0.48	6,980	2.73
平成4年	H4.8.1	272,471	5,426	1.99	1,069	0.39	6,495	2.38
平成8年	H8.8.1	296,213	5,332	1.80	978	0.33	6,310	2.13
平成12年	H12.8.1	311,860	5,758	1.85	902	0.29	6,660	2.14
平成16年	H16.8.1	319,671	6,995	2.19	933	0.29	7,928	2.48
平成20年	H20.8.1	326,763	7,739	2.37	1,093	0.33	8,832	2.70
平成26年	H26.8.1	332,903	8,296	2.49	985	0.30	9,281	2.79
令和元年	R1.8.1	339,186	8,613	2.54	967	0.29	9,580	2.83

市町村別世帯状況

市町村名	総人口 (R1.8.1)	総世帯数 (R1.8.1)	母子世帯		父子世帯	
			世帯数	出現率	世帯数	出現率
甲府市	188,520	86,571	2,325	2.69	310	0.36
富士吉田市	47,258	18,615	513	2.76	62	0.33
都留市	30,742	13,658	315	2.31	32	0.23
山梨市	33,470	13,017	394	3.03	59	0.45
大月市	23,232	9,593	201	2.10	16	0.17
韮崎市	29,592	11,920	310	2.60	29	0.24
南アルプス市	69,841	26,200	760	2.90	44	0.17
北杜市	43,823	18,860	386	2.05	28	0.15
甲斐市	75,208	31,263	823	2.63	95	0.30
笛吹市	68,260	27,249	572	2.10	44	0.16
上野原市	23,135	9,646	174	1.80	21	0.22
甲州市	29,787	11,283	333	2.95	46	0.41
中央市	30,996	13,113	243	1.85	16	0.12
市計	693,864	290,988	7,349	2.53	802	0.28
市川三郷町	14,784	5,875	173	2.94	18	0.31
西八代郡 計	14,784	5,875	173	2.94	18	0.31
早川町	994	553	10	1.81	1	0.18
身延町	11,027	4,793	79	1.65	13	0.27
南部町	7,354	2,900	51	1.76	13	0.45
富士川町	14,437	5,704	155	2.72	30	0.53
南巨摩郡 計	33,812	13,950	295	2.11	57	0.41
昭和町	20,542	8,804	376	4.27	19	0.22
中巨摩郡 計	20,542	8,804	376	4.27	19	0.22
道志村	1,614	589	7	1.19	3	0.51
西桂町	4,122	1,499	51	3.40	7	0.47
忍野村	9,278	3,630	54	1.49	7	0.19
山中湖村	5,180	1,949	50	2.57	13	0.67
鳴沢村	2,917	1,084	20	1.85	7	0.65
富士河口湖町	25,418	10,205	230	2.25	34	0.33
南都留郡 計	48,529	18,956	412	2.17	71	0.37
小菅村	688	330	6	1.82	0	0.00
丹波山村	522	283	2	0.71	0	0.00
北都留郡 計	1,210	613	8	1.31	0	0.00
町村計	118,877	48,198	1,264	2.62	165	0.34
合計	812,741	339,186	8,613	2.54	967	0.29

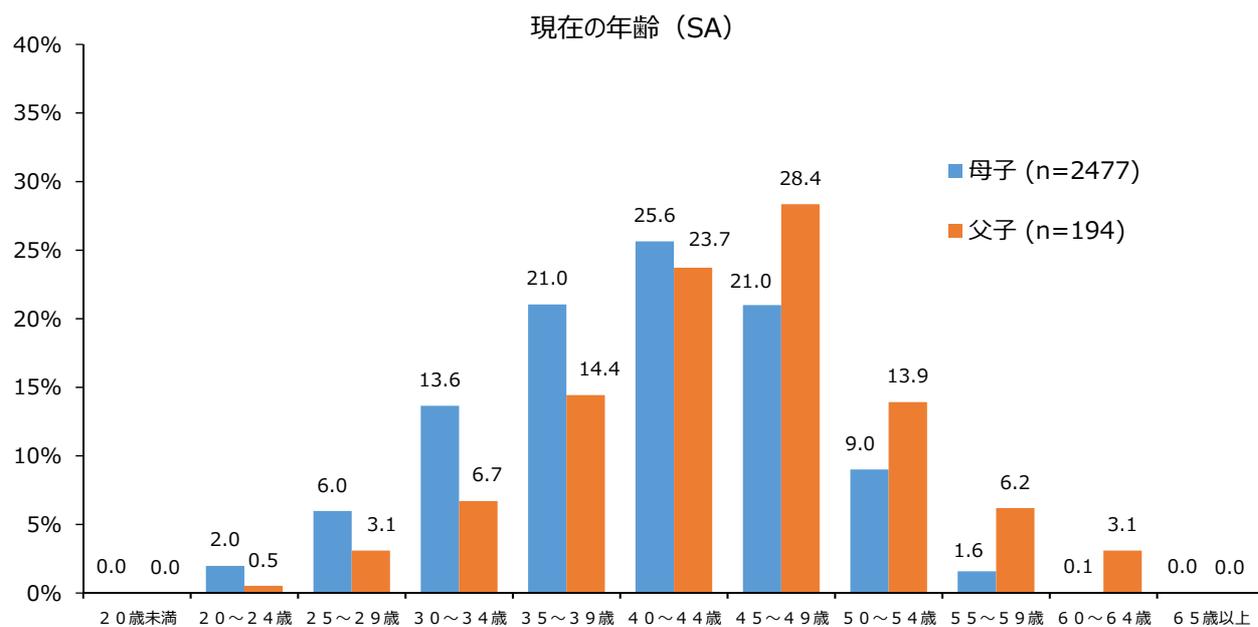
2 現在の世帯の状況

(1) 現在の年齢

問) あなたの現在の年齢はおいくつですか。

母子世帯の母の年齢は、「40～44歳」(25.6%)が最も多く、以下「35～39歳」(21.0%)と「45～49歳」(21.0%)が続き、30歳代(34.6%)と40歳代(46.6%)で8割超と多数を占めている。

父子世帯の父の年齢は、「45～49歳」(28.4%)が最も多く、次いで「40～44歳」(23.7%)となり、40歳代(52.1%)だけで5割超を占めている。



(2) 現在のすまい

問) あなたのお住まいの市町村はどちらですか。

市町村	母子世帯		父子世帯		合計	
	世帯数	割合	世帯数	割合	世帯数	割合
甲府市	497	20.1	29	14.9	526	19.7
富士吉田市	137	5.5	12	6.2	149	5.6
都留市	98	4.0	10	5.2	108	4.0
山梨市	96	3.9	5	2.6	101	3.8
大月市	34	1.4	2	1.0	36	1.3
韮崎市	104	4.2	3	1.5	107	4.0
南アルプス市	230	9.3	24	12.4	254	9.5
北杜市	102	4.1	10	5.2	112	4.2
甲斐市	313	12.6	24	12.4	337	12.6
笛吹市	236	9.5	24	12.4	260	9.7
上野原市	57	2.3	6	3.1	63	2.4
甲州市	95	3.8	12	6.2	107	4.0
中央市	101	4.1	4	2.1	105	3.9
市川三郷町	54	2.2	5	2.6	59	2.2
早川町	0	0.0	0	0.0	0	0.0
身延町	53	2.1	4	2.1	57	2.1
南部町	36	1.5	4	2.1	40	1.5
富士川町	81	3.3	10	5.2	91	3.4
昭和町	41	1.7	0	0.0	41	1.5
道志村	3	0.1	1	0.5	4	0.1
西桂町	17	0.7	0	0.0	17	0.6
忍野村	1	0.0	0	0.0	1	0.0
山中湖村	13	0.5	1	0.5	14	0.5
鳴沢村	7	0.3	1	0.5	8	0.3
富士河口湖町	67	2.7	3	1.5	70	2.6
小菅村	3	0.1	0	0.0	3	0.1
丹波山村	1	0.0	0	0.0	1	0.0
合計	2,477	100.0	194	100.0	2,671	100.0

3 ひとり親家庭になった当時の状況

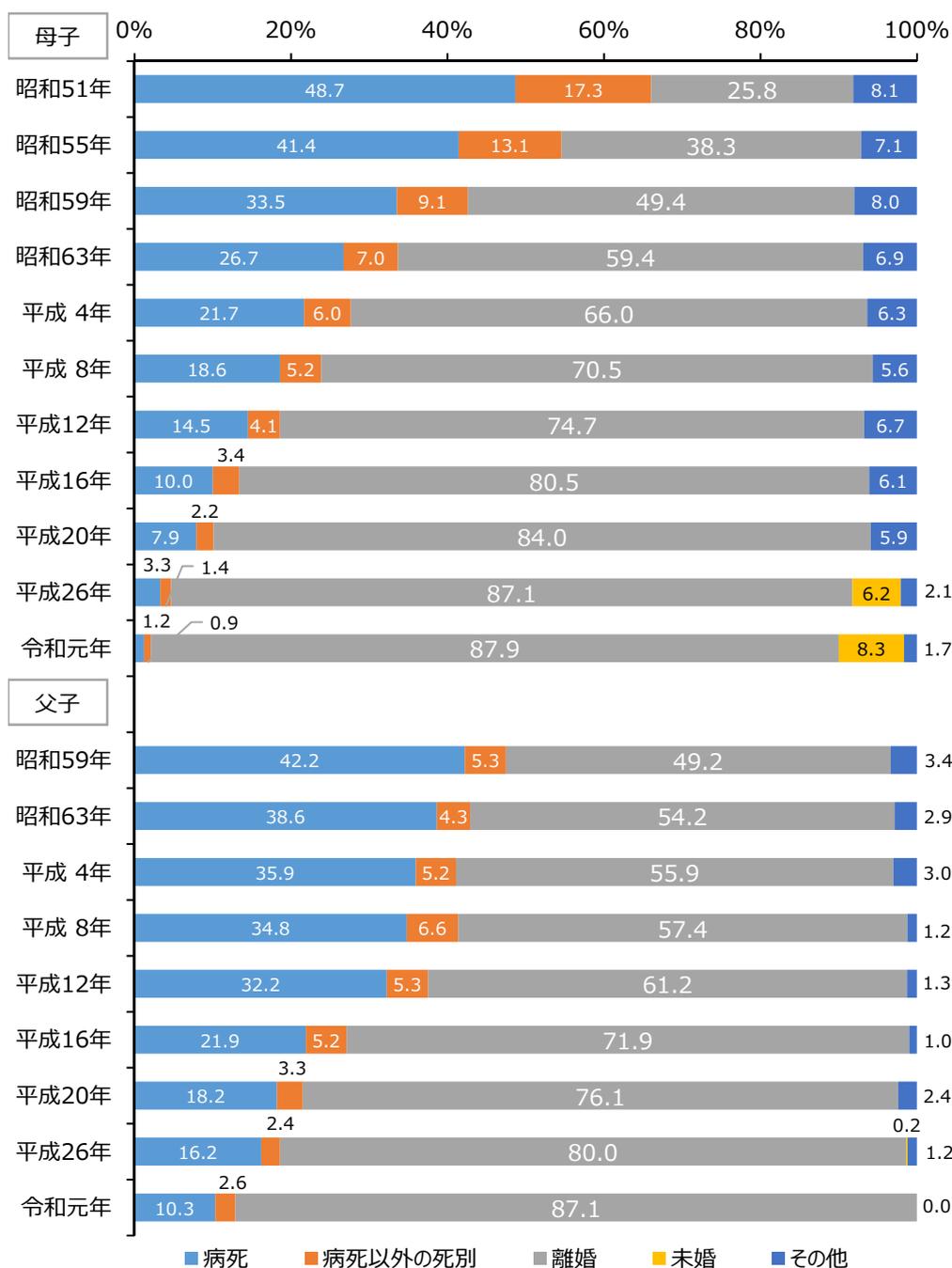
(1) ひとり親家庭になった原因

問) 母子世帯または父子世帯になった原因はなんですか。

両世帯区分で「離婚」の割合が増加傾向にあり、母子世帯が 87.9%（前回から+0.8 ポイント）、父子世帯が 87.1%（前回から+7.1 ポイント）と多数を占めている。

一方、両世帯区分で「死別」（病死、病死以外の死別）の割合が減少傾向にあり、母子世帯が 2.1%（前回から-2.6 ポイント）、父子世帯が 12.9%（前回から-5.7 ポイント）となっている。

ひとり親家庭になった原因 (SA)

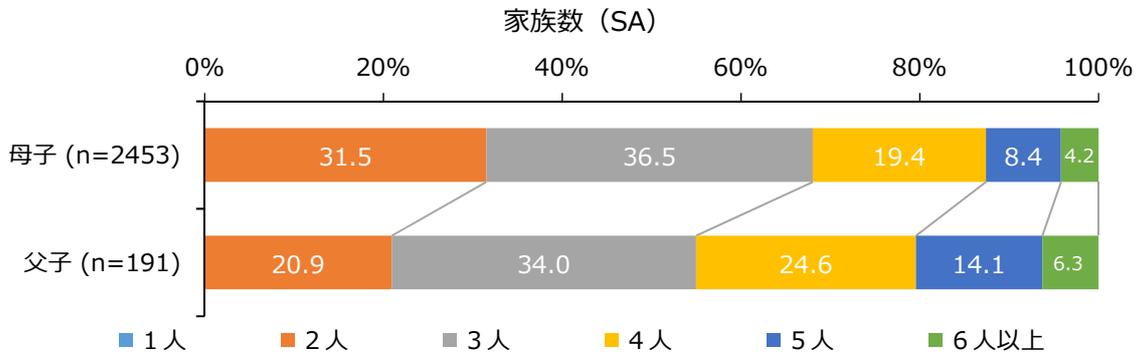


※病死以外の死別…交通事故死、その他の死亡
 ※その他…遺棄、生死不明、未婚、DV（配偶者からの暴力）ほか
 ※未婚…平成 20 年まで「その他」に含まれる

(2) 家族数

問) あなたを含め、家族は全員で何人ですか。(別居中で 20 歳未満のお子さんも含みます)

両世帯区分で「3人」が最も多い(母子世帯 36.5%、父子世帯 34.0%) が、父子世帯では母子世帯に比べて4人以上(45.0%)の割合が高くなっている。



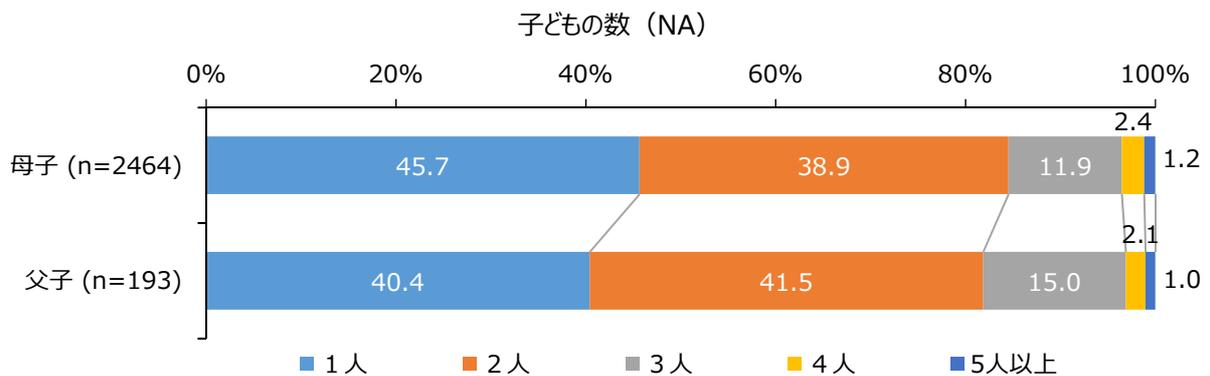
(3) 子どもの数

問) お子さんは何人ですか。(別居中のお子さんも含みます)

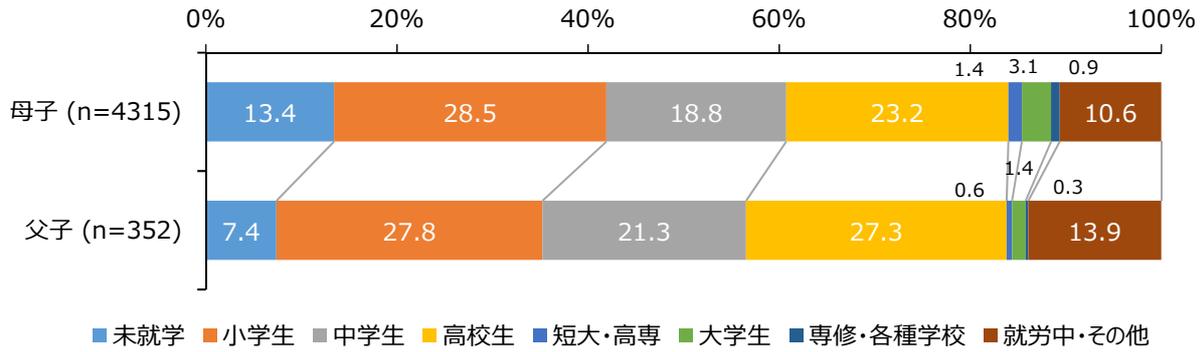
母子世帯では「1人」(45.7%)、父子世帯では「2人」(41.5%)が最も多く、両世帯区分で2人以下の割合が8割超と多数を占めている。

就学別では両世帯区分ともに、「小学生」(母子世帯 28.5%、父子世帯 27.8%)が最も多くなっている。

末子の年齢は、両世帯区分ともに「15~17歳」(母子世帯 23.7%、父子世帯 27.3%)が最も多くなっている。

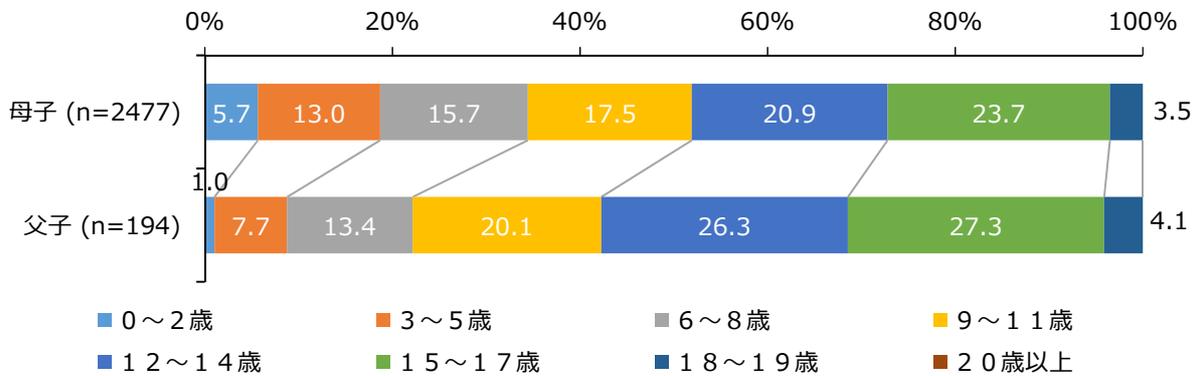


子どもの就学・就労状況別の人数 (NA)



n=子の人数の合計

未子の年齢 (SA)

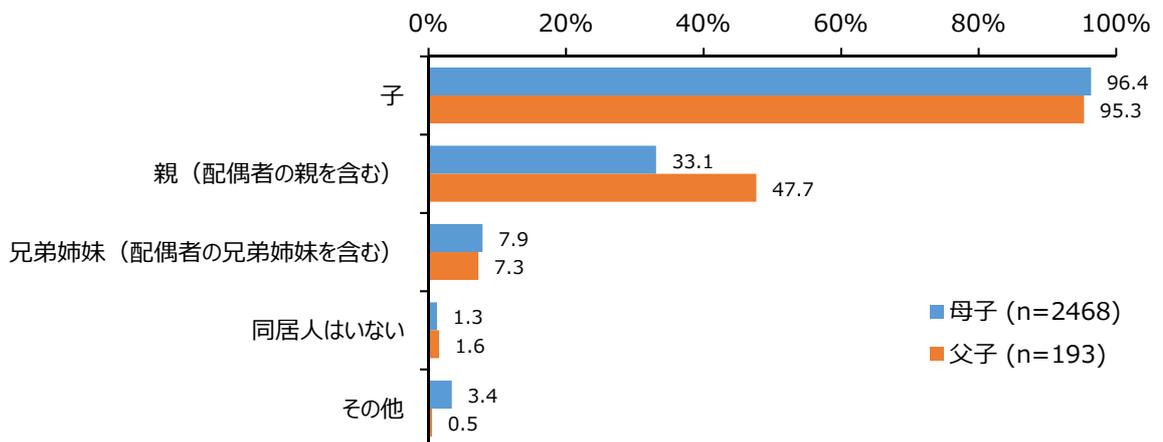


(4) 同居者

問) どなたと同居していますか。(該当するものすべて)

両世帯区分ともに「子」(母子世帯 96.4%、父子世帯 95.3%) が最も多く、次いで「親 (配偶者の親を含む)」(母子世帯 33.1%、父子世帯 47.7%) となっている。

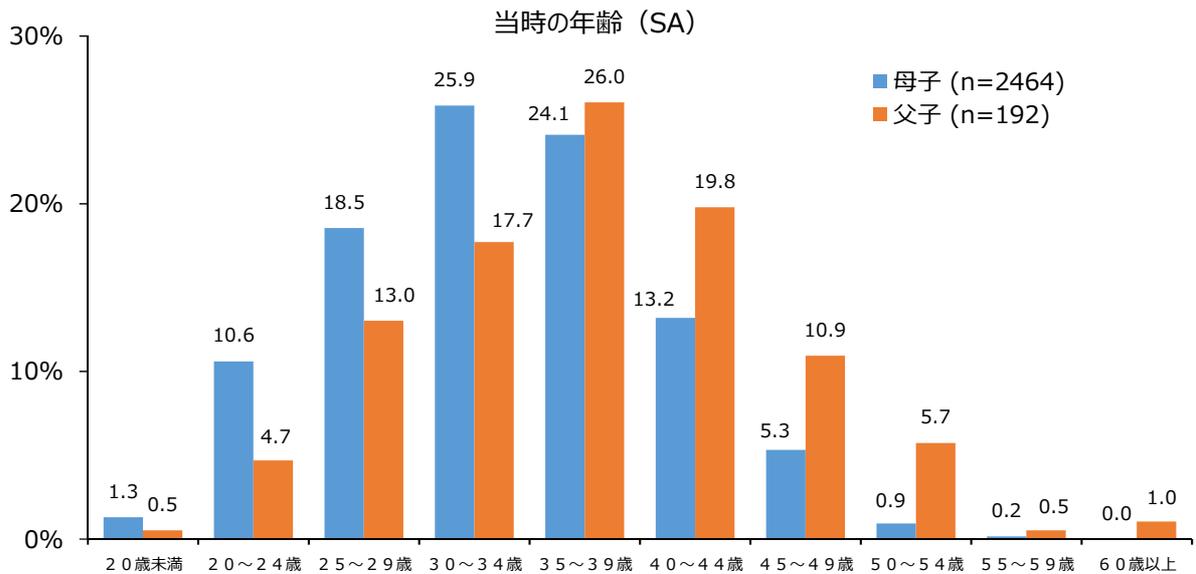
同居者 (MA)



(5) 当時の年齢

問) その当時のあなたの年齢は、おいくつでしたか。

ひとり親家庭になった年齢は、母子世帯は「30～34歳」(25.9%)が最も多くなっている。父子世帯は「35～39歳」(26.0%)が最も多くなっている。次いで母子世帯が「35～39歳」(24.1%)、父子世帯が「40～44歳」(19.8%)となっている。母子世帯では20～34歳以下(55.0%)が過半数を占め、父子世帯に比べ、20歳代から30歳代前半でひとり親家庭になった割合が高くなっている。

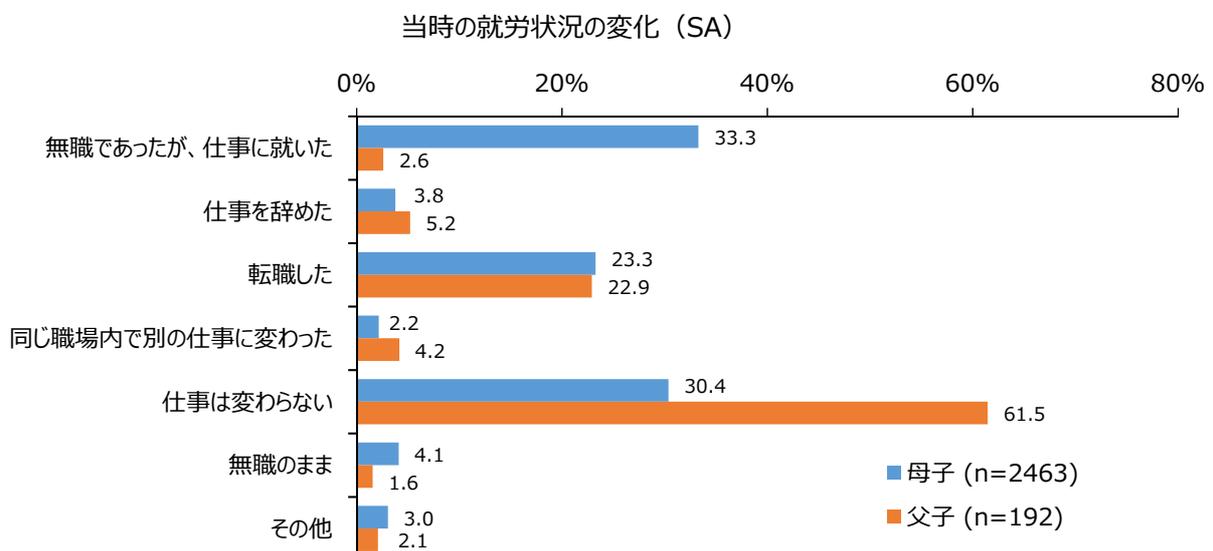


(6) 当時の就労状況の変化

問) その当時、ひとり親家庭になったことで、就労の状況は変わりましたか。

母子世帯は「無職であったが、仕事に就いた」(33.3%)が最も多く、次いで「仕事は変わらない」(30.4%)となっている。

父子世帯は、「仕事は変わらない」(61.5%)が最も多く、次いで「転職した」(22.9%)となっている。



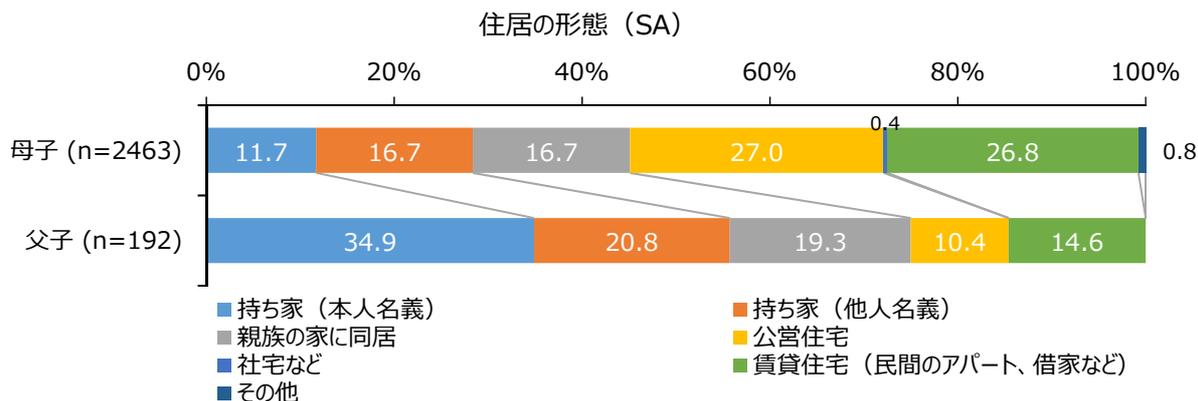
4 住居の状況

(1) 住居の形態

問) あなたの住居はどれですか。

母子世帯では「公営住宅」(27.0%)、「賃貸住宅(民間のアパート、借家など)」(26.8%)の合計割合が5割超を占め、賃貸住宅の割合が高くなっている。

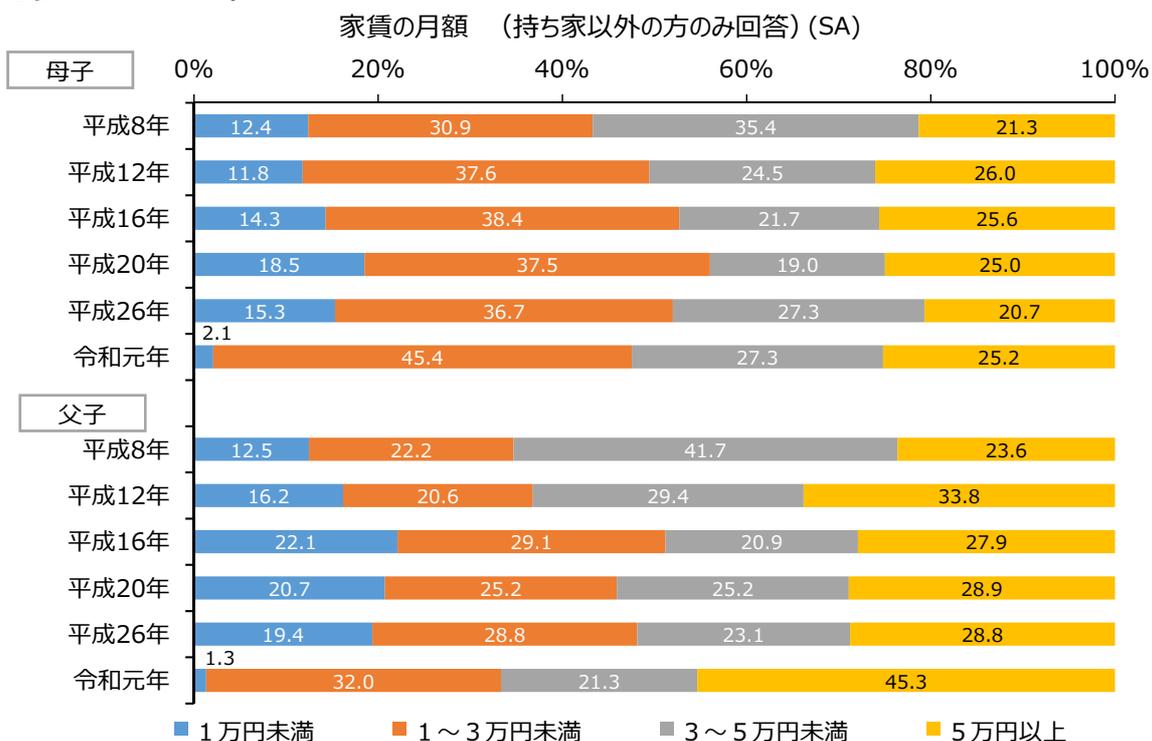
父子世帯は「持ち家(本人名義)」(34.9%)が最も多く、「持ち家(他人名義)」(20.8%)と合わせると5割超を占めている。



(2) 家賃の月額

問) 月々の家賃はどれくらいですか。(持ち家以外の方のみ回答)

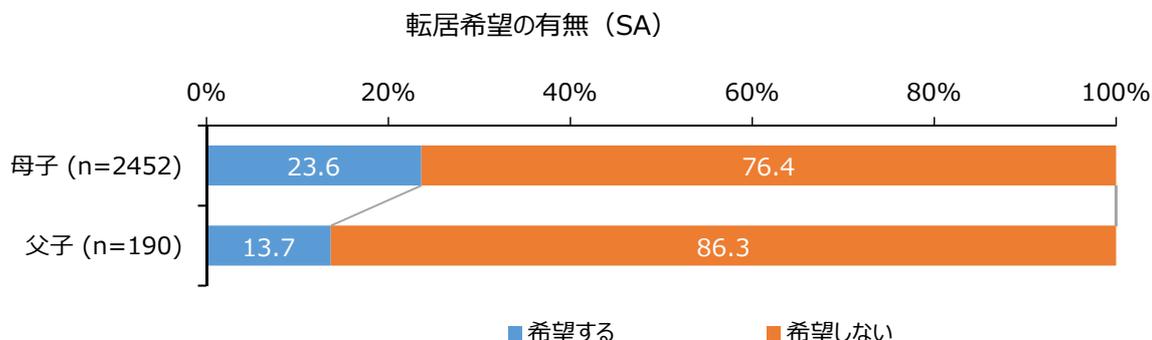
母子世帯は「1~3万円未満」(45.4%)が最も多く、父子世帯は「5万円以上」(45.3%)が最も多くなっている。



(3) 転居希望の有無

問) 現在の住居からの転居を希望しますか。

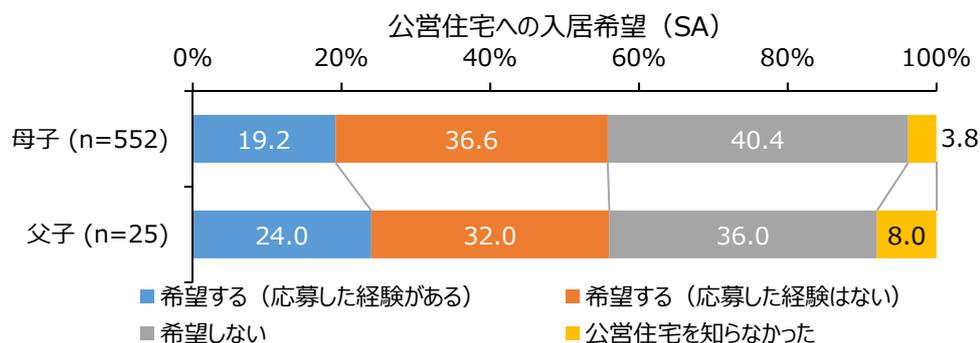
両世帯区分で「希望しない」(母子世帯 76.4%、父子世帯 86.3%) が8割程度を占めている。



(4) 公営住宅への入居希望

問) 公営住宅への入居を希望しますか。(転居希望がある方のみ回答)

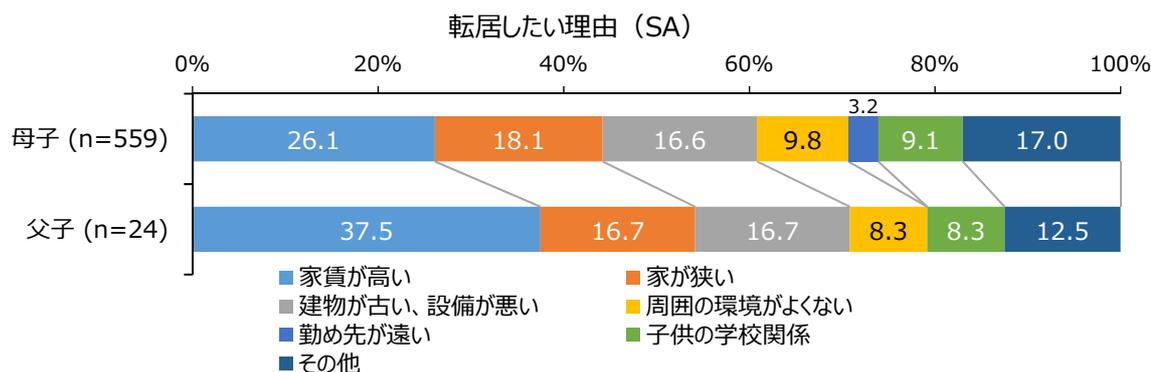
両世帯区分ともに、「希望する(応募した経験がある)」と「希望する(応募した経験はない)」の合計(母子世帯 55.8%、父子世帯 56.0%)が、5割超となっている。



(5) 転居したい理由

問) 転居を希望する、主な理由を教えてください。(転居希望がある方のみ回答)

両世帯区分で「家賃が高い」(母子世帯 26.1%、父子世帯 37.5%) が最も多くなっている。



5 就労の状況

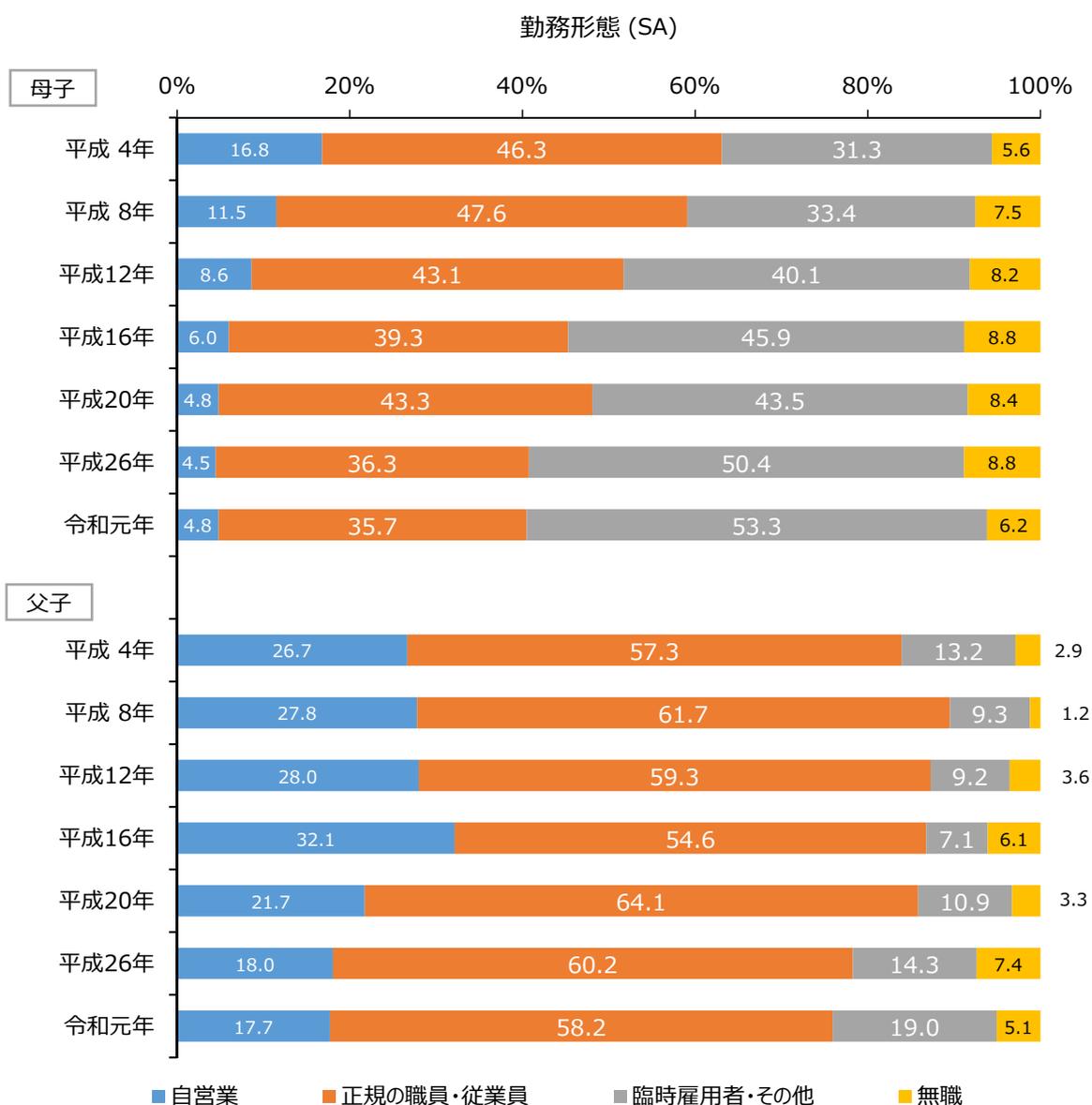
(1) 現在の仕事の勤務形態

問) あなたの勤務形態はなんですか。

母子世帯は「臨時雇用者・その他」(53.3%)が最も多く、次いで「正規の職員・従業員」(35.7%)となっている。父子世帯は「正規の職員・従業員」(58.2%)が6割弱程度と多数を占め、以下、「臨時雇用者・その他」(19.0%)、自営業(17.7%)の順となっている。

前回から両世帯区分で「正規の職員・従業員」の割合が減少(母子世帯-0.6ポイント、父子世帯-2.0ポイント)し、「臨時雇用者・その他」の割合が増加(母子世帯+2.9ポイント、父子世帯+4.7ポイント)している。

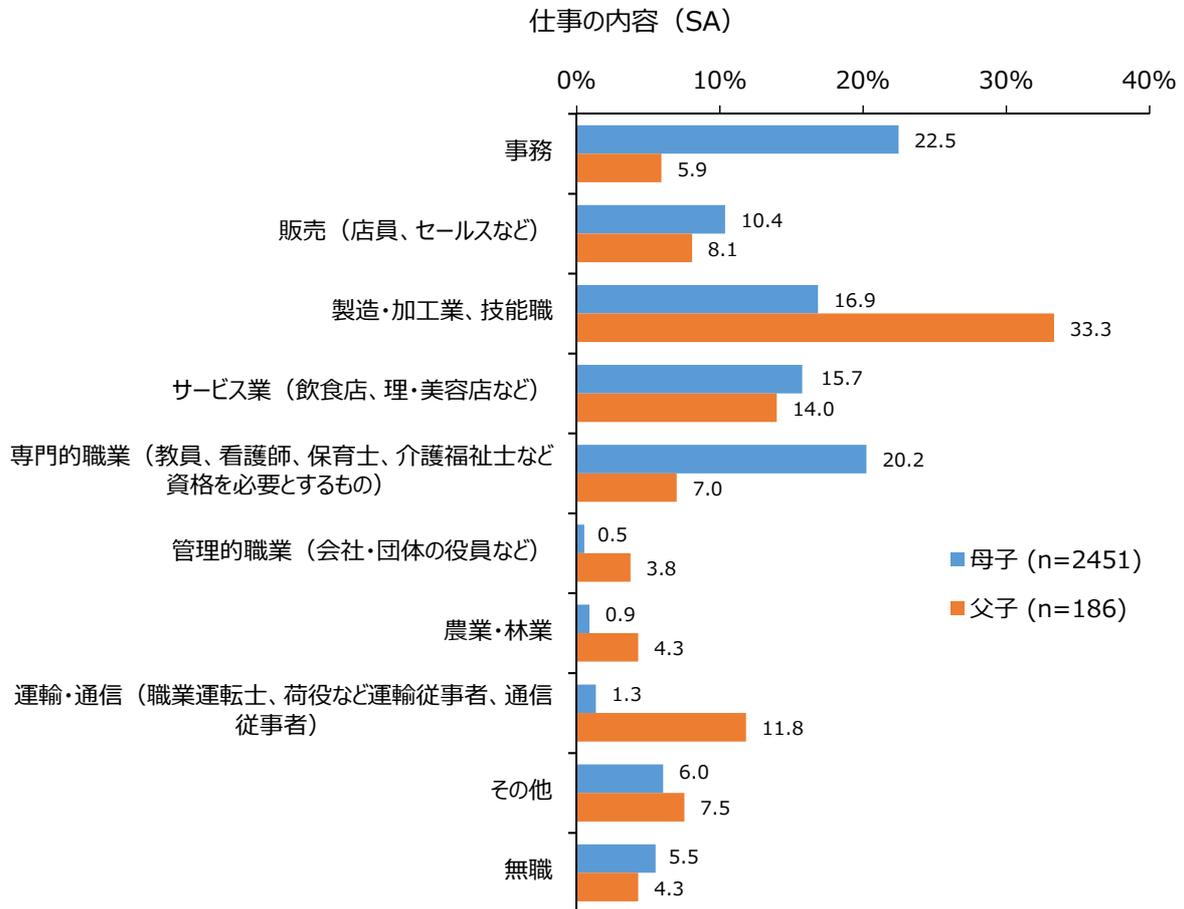
「無職」の割合は、母子世帯が6.2%(前回から-2.6ポイント)、父子世帯が5.1%(前回から-2.3ポイント)と減少している。



(2) 仕事の内容

問) あなたの現在の仕事の内容はなんですか。

母子世帯は「事務」(22.5%)が最も多く、次いで「専門的職業」(20.2%)となっている。父子世帯は「製造・加工業、技能職」(33.3%)が最も多くなっている。

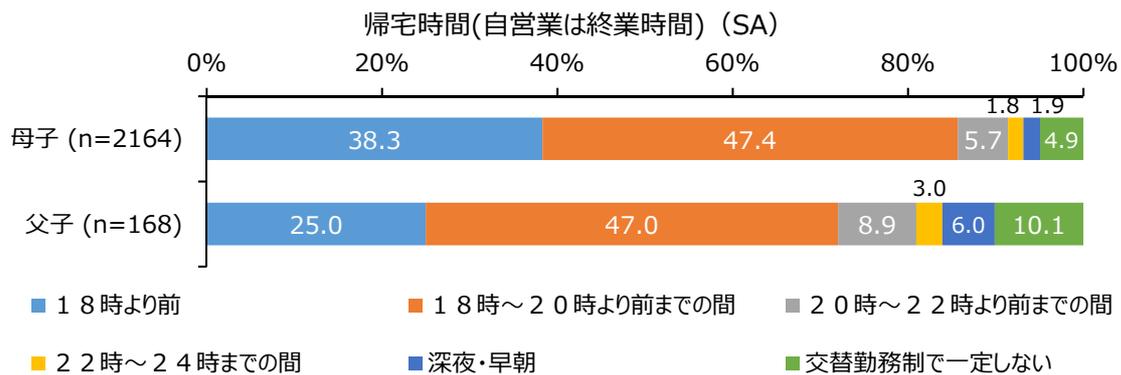
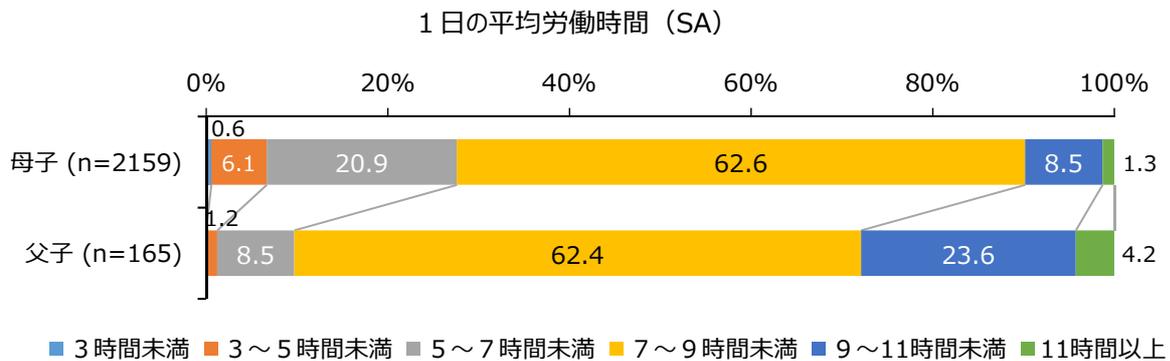


(3) 1日の労働時間

問) あなたの1日の労働時間は平均どれくらいですか。(無職以外の方のみ回答)

両世帯区分で「7～9時間未満」(母子世帯 62.6%、父子世帯 62.4%)が6割超を占め最も多く、次いで母子世帯では「5～7時間未満」(20.9%)、父子世帯では「9～11時間未満」(23.6%)となっている。父子世帯の9割超が7時間以上となっている。

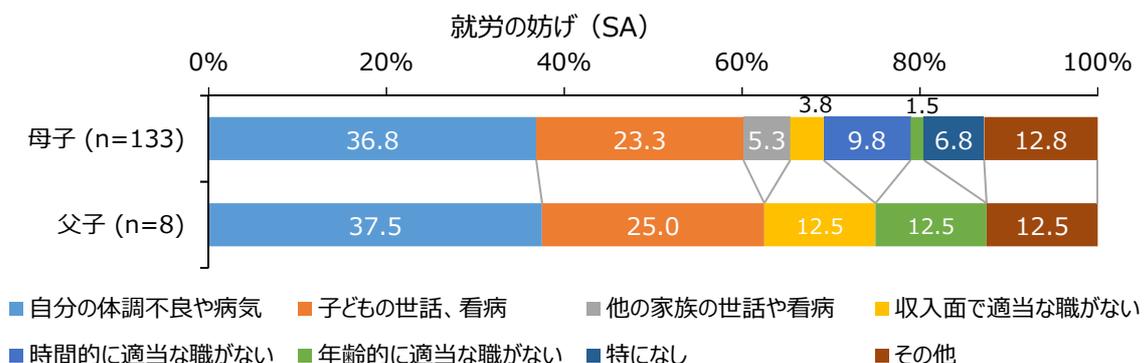
また、帰宅時間は両世帯区分で「18時～20時より前までの間」(母子世帯 47.4%、父子世帯 47.0%)が5割程度となっている。



(4) 無職の理由 (就労の妨げ)

問) あなたの就労の妨げになっている主な理由は何ですか。(無職の方のみ回答)

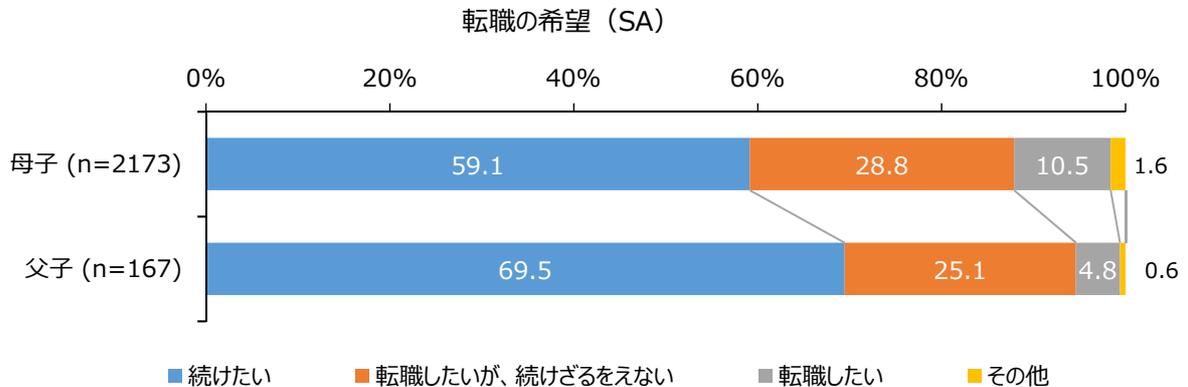
両世帯区分で「自分の体調不良や病気」(母子世帯 36.8%、父子世帯 37.5%)が最も多く、次いで「子どもの世話、看病」(母子世帯 23.3%、父子世帯 25.0%)となっている。



(5) 現在の仕事の意向

問) あなたは今の仕事について、転職の希望はありますか。(無職以外の方のみ回答)

両世帯区分で、「続けたい」(母子世帯 59.1%、父子世帯 69.5%) が 6~7 割程度となっている。

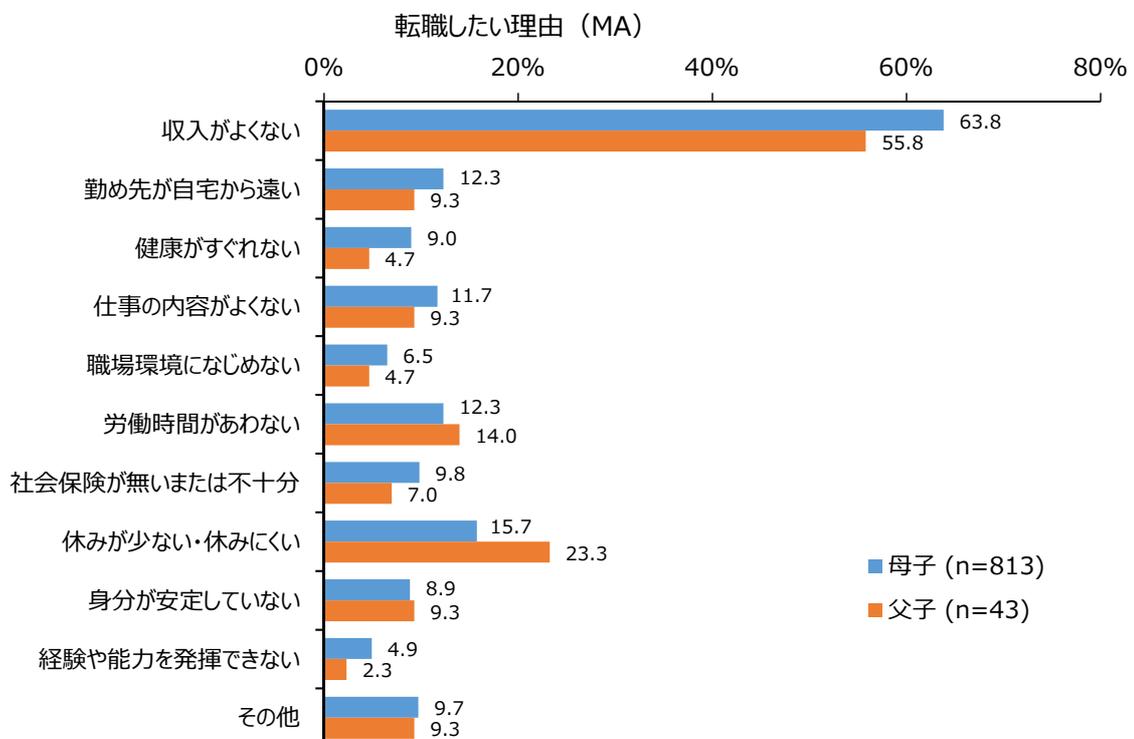


(6) 転職したい理由

問) 転職したい主な理由は何ですか。(2つ以内)

(5の(5)で「転職したい」「転職したいが、続けざるをえない」を回答した方のみ回答)

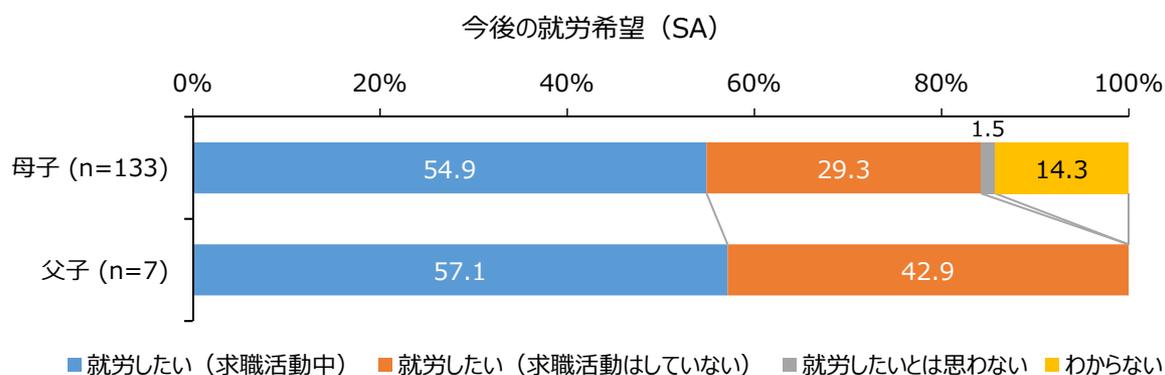
両世帯区分で「収入がよくない」(母子世帯 63.8%、父子世帯 55.8%) が最も多く、次いで「休みが少ない・休みにくい」(母子世帯 15.7%、父子世帯 23.3%) となっている。



(7) 今後の就労意向

問) あなたは今後、就労したいと思いますか。(無職の方のみ回答)

両世帯区分で「就労したい(求職活動中)」(母子世帯 54.9%、父子世帯 57.1%)、「就労したい(求職活動はしていない)」(母子世帯 29.3%、父子世帯 42.9%) となっており、現在無職の方の8割超に就労意向がある。

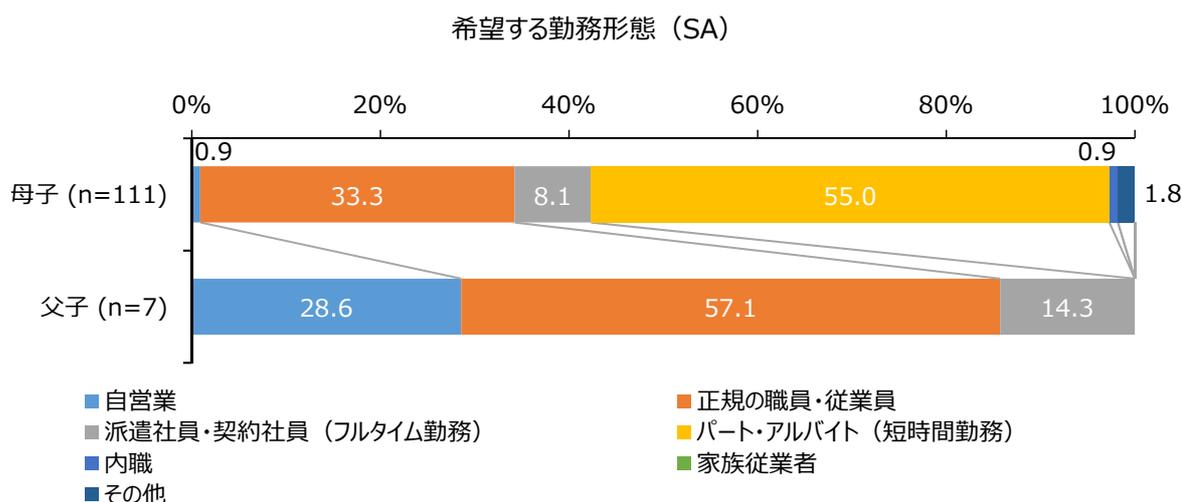


(8) 希望する勤務形態

問) あなたは、どんな勤務形態で就労したいと思いますか。

(5の(7)で「就労したい(求職活動中・していない)」を回答した方のみ回答)

母子世帯は「パート・アルバイト(短時間勤務)」(55.0%)が最も多く、次いで「正規の職員・従業員」(33.3%)となっている。父子世帯は「正規の職員・従業員」(57.1%)が6割程度と最も多く、次いで「自営業」(28.6%)となっている。

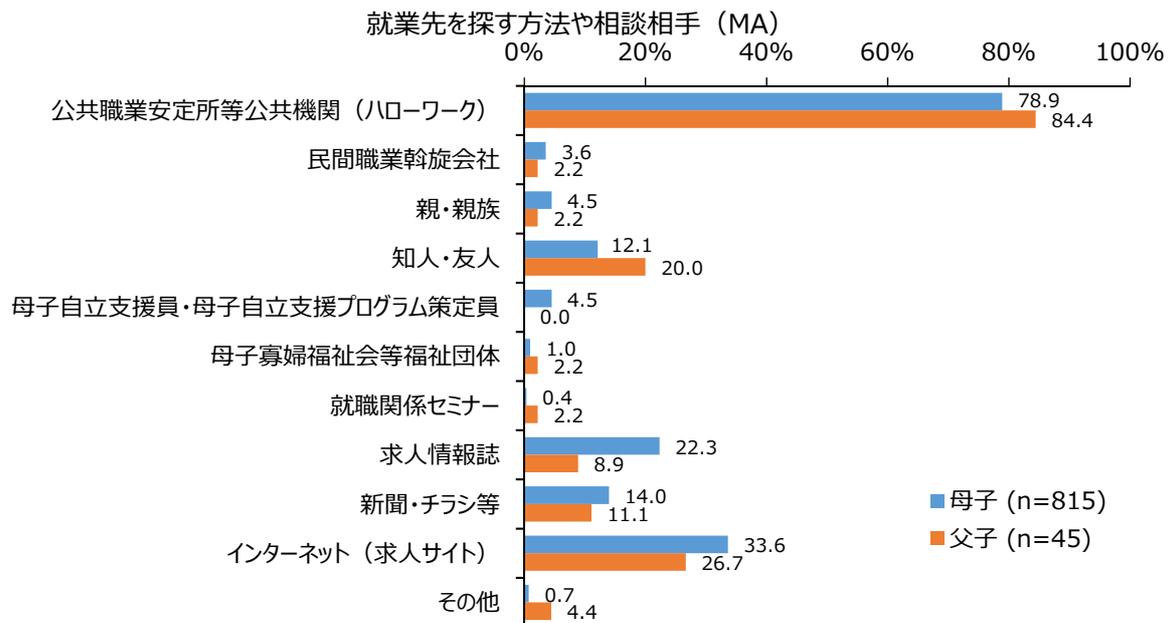


※家族従業者(家事手伝い)は両世帯区分とも0%
父子世帯はパート・アルバイト、内職、その他は0%

(9) 転職先を探す方法や相談相手

問) 転職する場合、就職先を探す方法や相談する相手はなんですか。(2つ以内)
 (5の(5)で「転職したい」「転職したいが、続けざるをえない」を回答した方のみ回答)

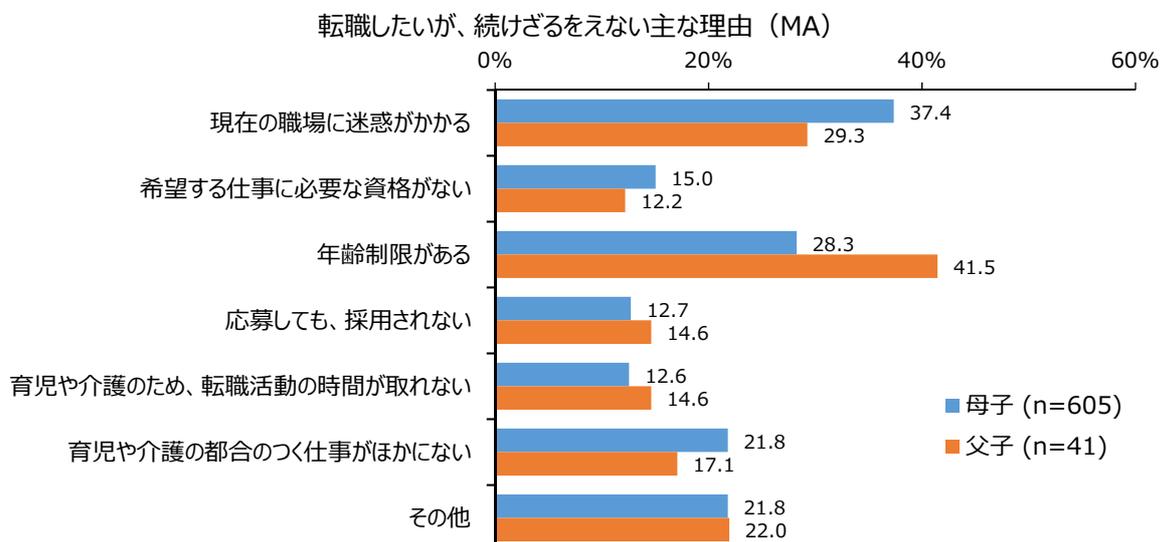
両世帯区分で「公共職業安定所等公共機関(ハローワーク)」(母子世帯 78.9%、父子世帯 84.4%)が8割程度と最も多く、次いで「インターネット(求人サイト)」(母子世帯 33.6%、父子世帯 26.7%)となっている。また、母子世帯では「求人情報誌」(22.3%)、父子世帯では「知人・友人」(20.0%)の割合が他方の世帯より高くなっている。



(10) 現在の仕事を続けざるをえない理由

問) 続けざるをえない主な理由はなんですか。(2つ以内)
 (5(5)で「転職したいが続けざるをえない」を回答した方のみ回答)

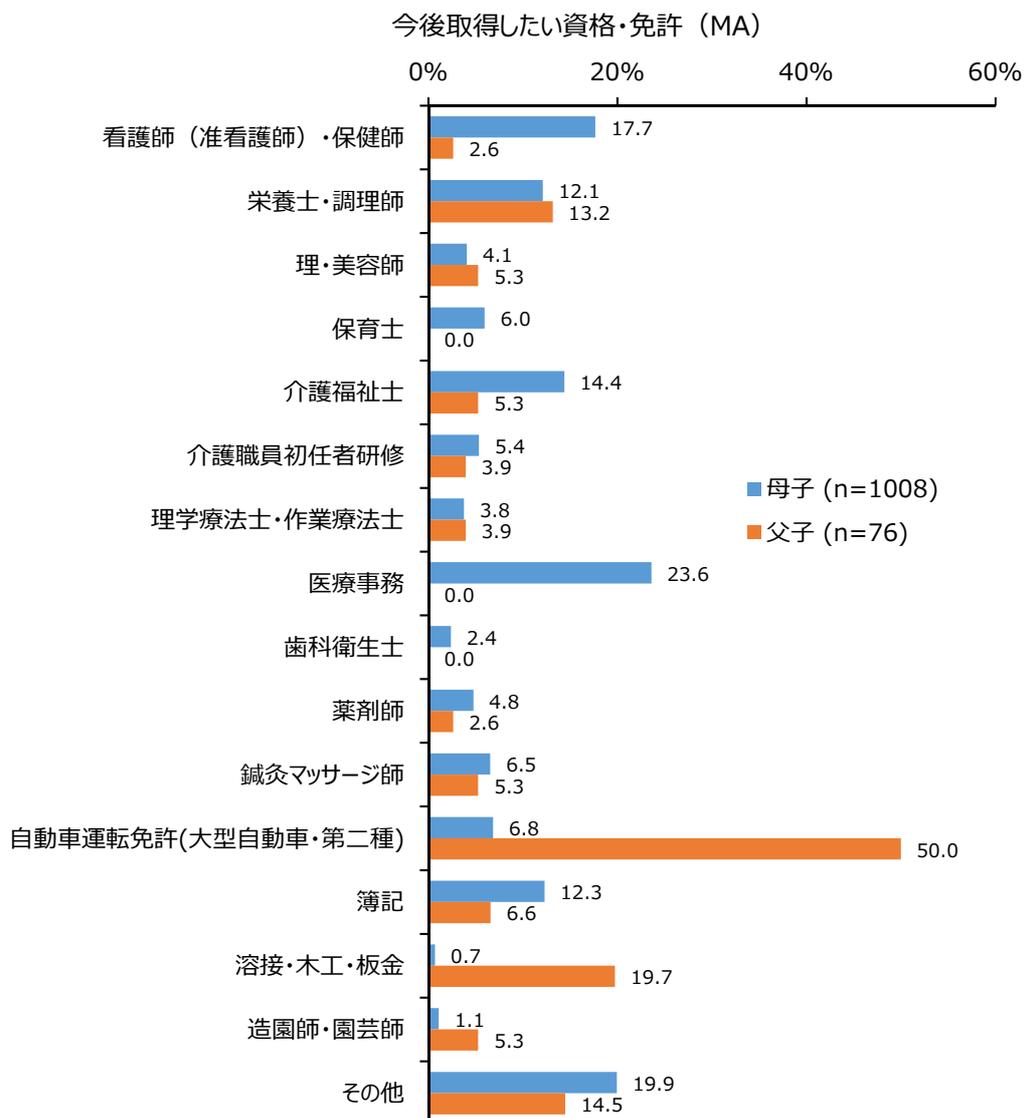
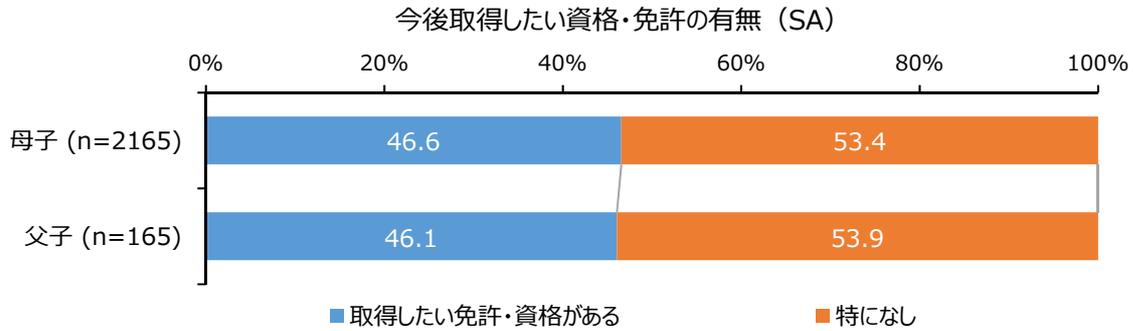
母子世帯は「現在の職場に迷惑がかかる」(37.4%)が最も多く、次いで「年齢制限がある」(28.3%)の順となっている。父子世帯は「年齢制限がある」(41.5%)が最も多く、次いで「現在の職場に迷惑がかかる」(29.3%)の順となっている。



(11) 今後取得したい資格・免許

問) 今後取得したい資格・免許はなんですか。(2つ以内)

両世帯区分で「取得したい資格・免許がある」(母子世帯 46.6%、父子世帯 46.1%)と「特になし」(母子世帯 53.4%、父子世帯 53.9%)が同程度となっている。取得したい資格・免許は、母子世帯では「医療事務」(23.6%)、父子世帯では「自動車運転免許(大型自動車・第二種)」(50.0%)が最も多くなっている。



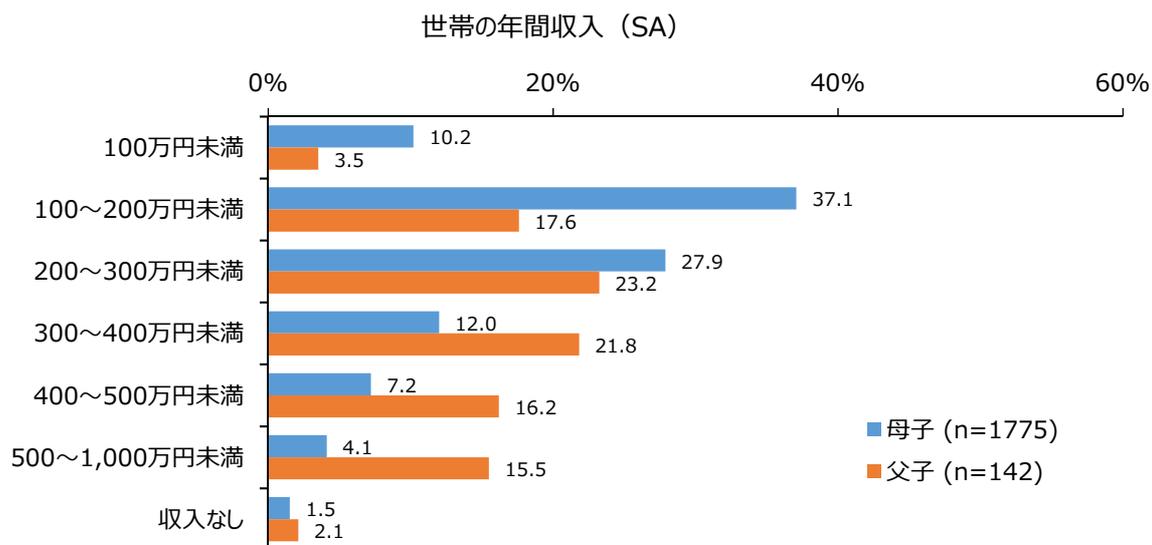
6 家計の状況

(1) 世帯の年間収入

問) 1年間の総収入(税込)はどれくらいですか。(世帯全員の合計収入)

母子世帯は「100～200万円未満」(37.1%)が最も多く、次いで「200～300万円未満」(27.9%)となっている。父子世帯は「200～300万円未満」(23.2%)が最も多く、次いで「300～400万円未満」(21.8%)となっている。

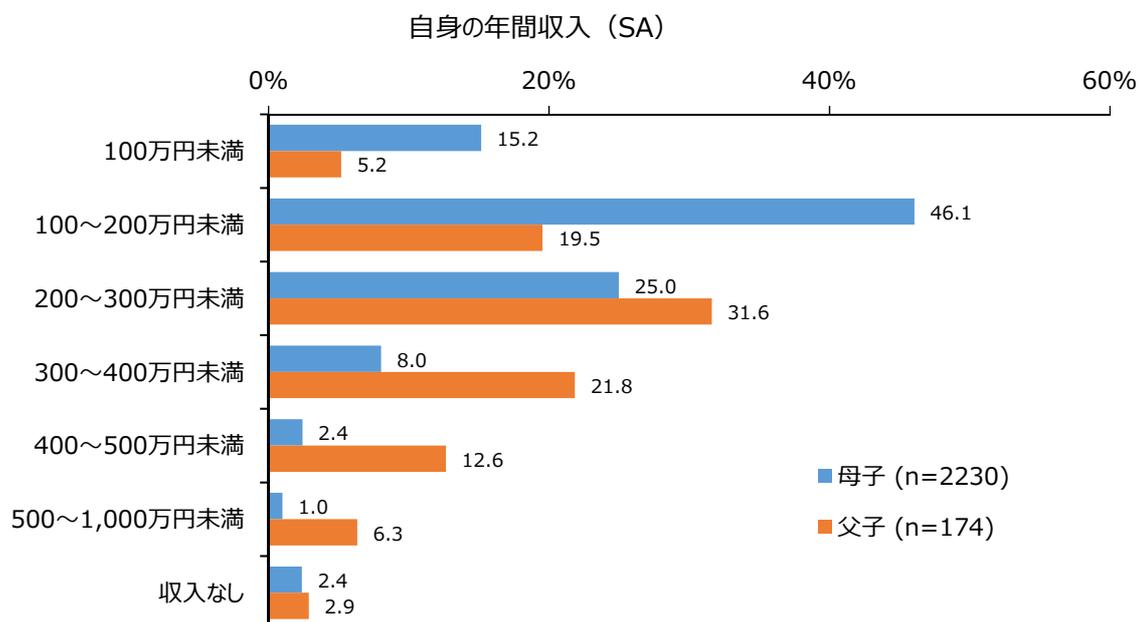
母子世帯の年間収入は父子世帯に比べて全体的に低い結果となっている。



(2) 自身の年間収入

問) 1年間の総収入(税込)はどれくらいですか。(あなた自身の収入)

母子世帯は「100～200万円未満」(46.1%)が最も多く、以下「200～300万円未満」(25.0%)、「100万円未満」(15.2%)の順となっており、300万円未満(86.3%)の方が多数を占めている。父子世帯は「200～300万円未満」(31.6%)が最も多く、以下「300～400万円未満」(21.8%)、「100～200万円未満」(19.5%)の順となっている。



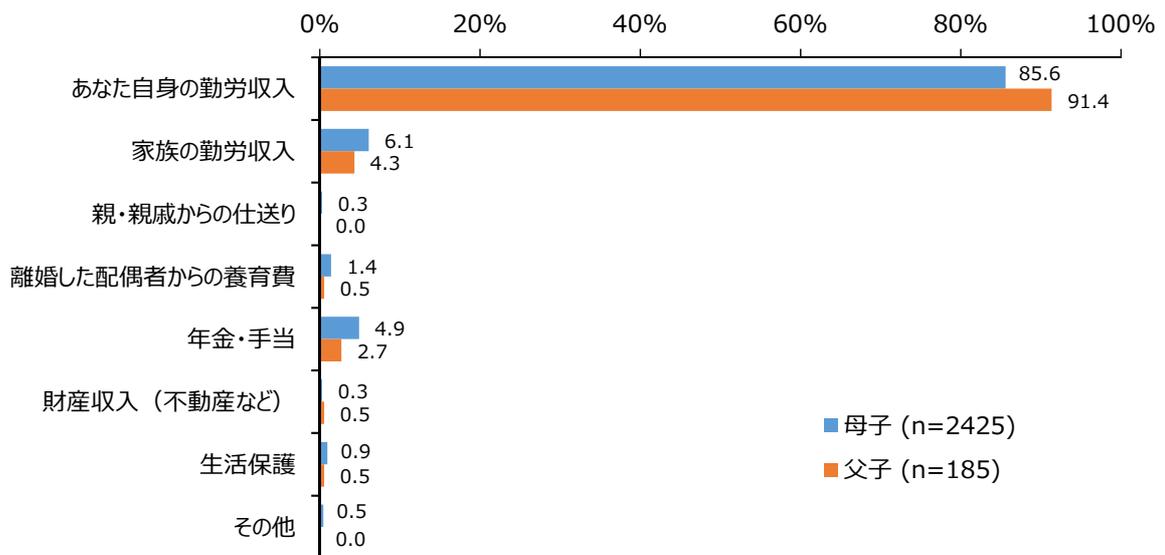
(3) 主な収入源

問) 主な収入源はなんですか。

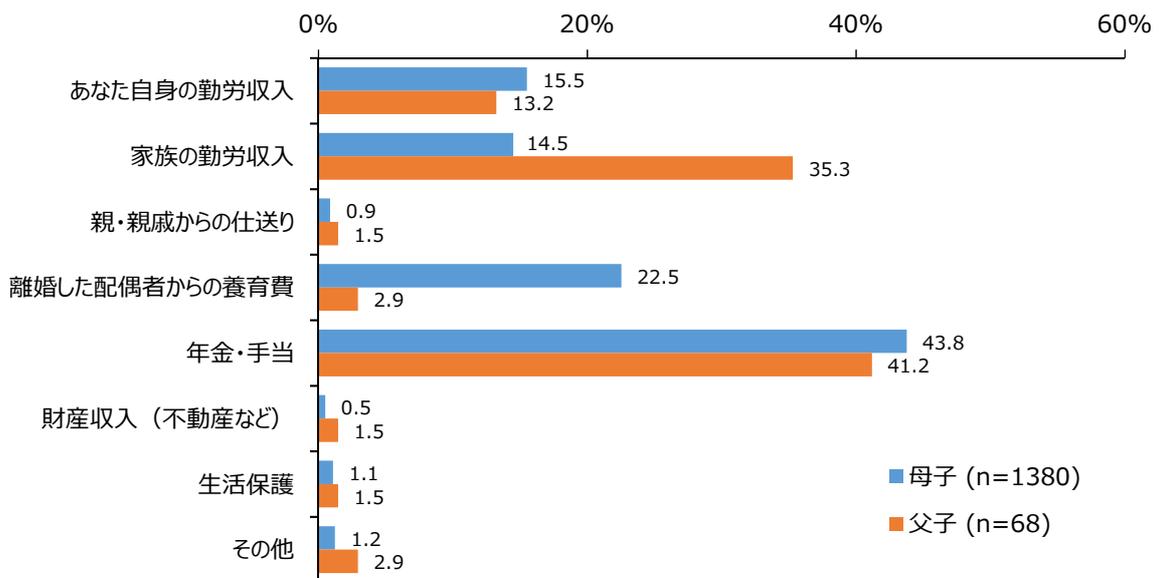
両世帯区分で「あなた自身の勤労収入」（母子世帯 85.6%、父子世帯 91.4%）が9割程度と多数を占めている。

2番目の収入では両世帯区分で「年金・手当」（母子世帯 43.8%、父子世帯 41.2%）が最も多くなっている。母子世帯では父子世帯に比べて「離婚した配偶者からの養育費」（22.5%）の割合が高くなっている。

主な収入源（1番目の収入）（SA）



主な収入源（2番目の収入）（SA）

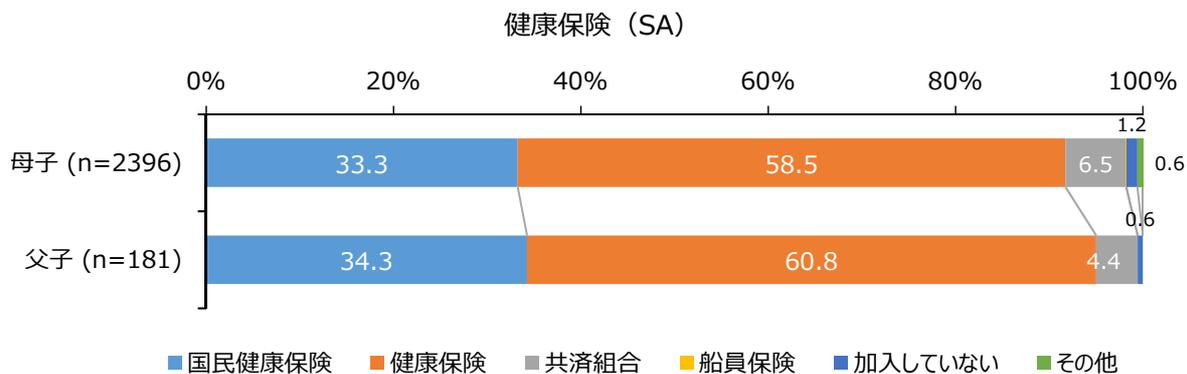


7 社会保険の加入状況

(1) 健康保険

問) あなたが加入している健康保険はどれですか。

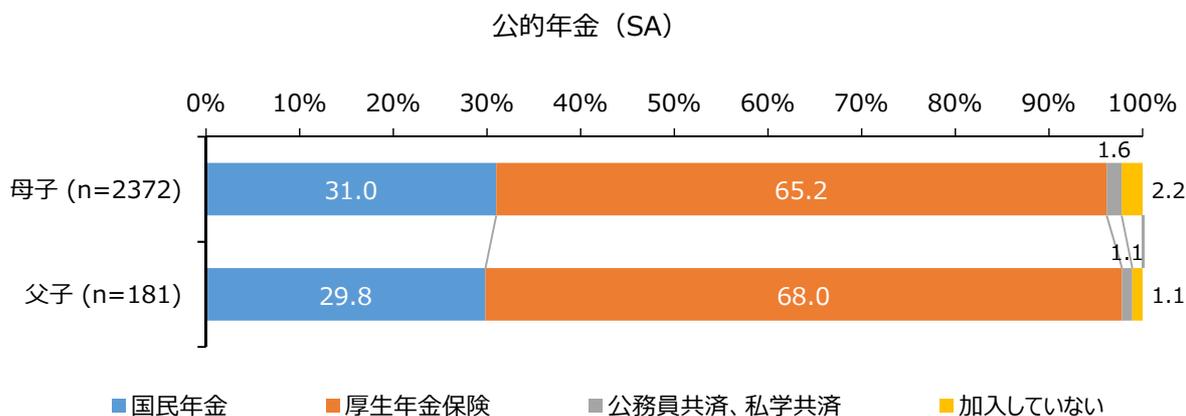
両世帯区分で「健康保険」(母子世帯 58.5%、父子世帯 60.8%) が 6 割程度と最も多く、次いで「国民健康保険」(母子世帯 33.3%、父子世帯 34.3%) となっている。



(2) 公的年金

問) あなたが加入している公的年金はどれですか。

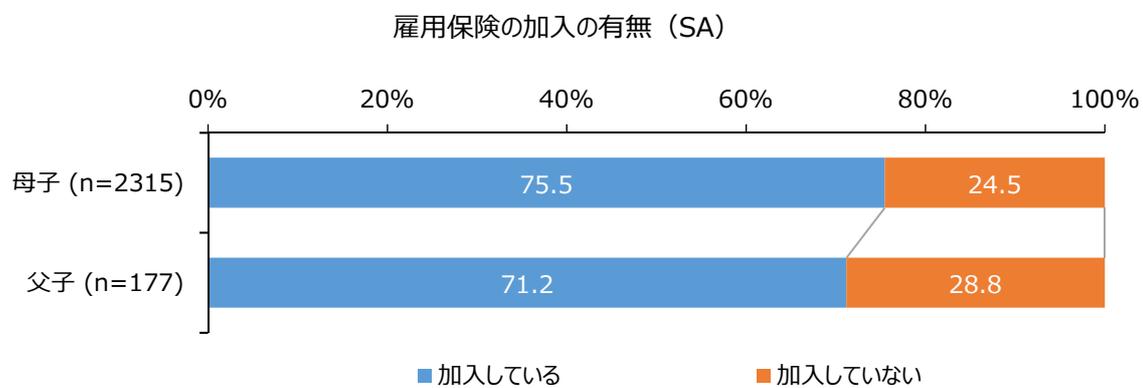
両世帯区分で「厚生年金保険」(母子世帯 65.2%、父子世帯 68.0%) が 7 割弱程度と最も多く、次いで「国民年金」(母子世帯 31.0%、父子世帯 29.8%) となっている。



(3) 雇用保険

問) あなたは、雇用保険に加入していますか。

両世帯区分で「加入している」(母子世帯 75.5%、父子世帯 71.2%) が7割超と多数を占めている。

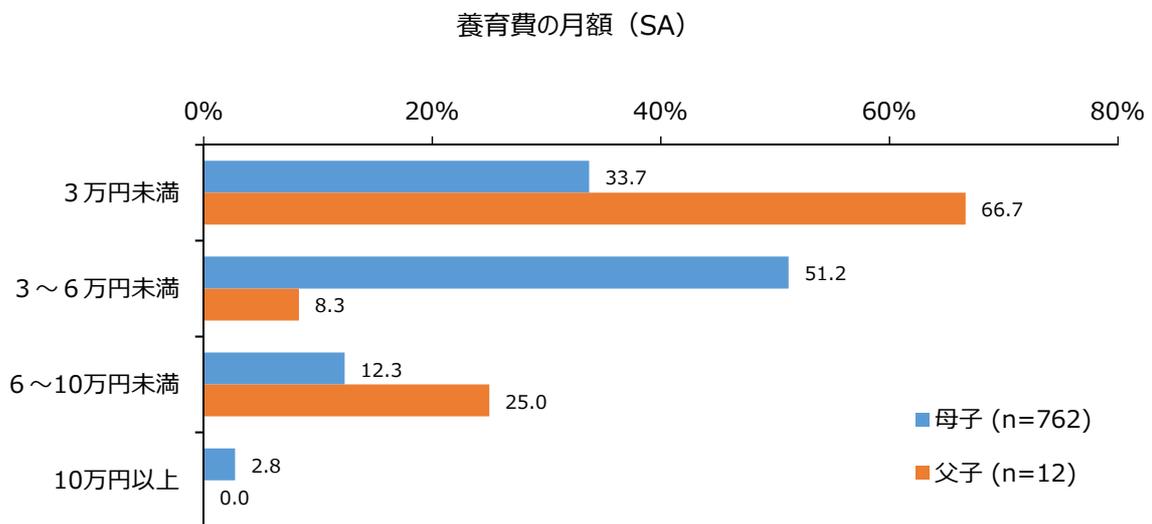
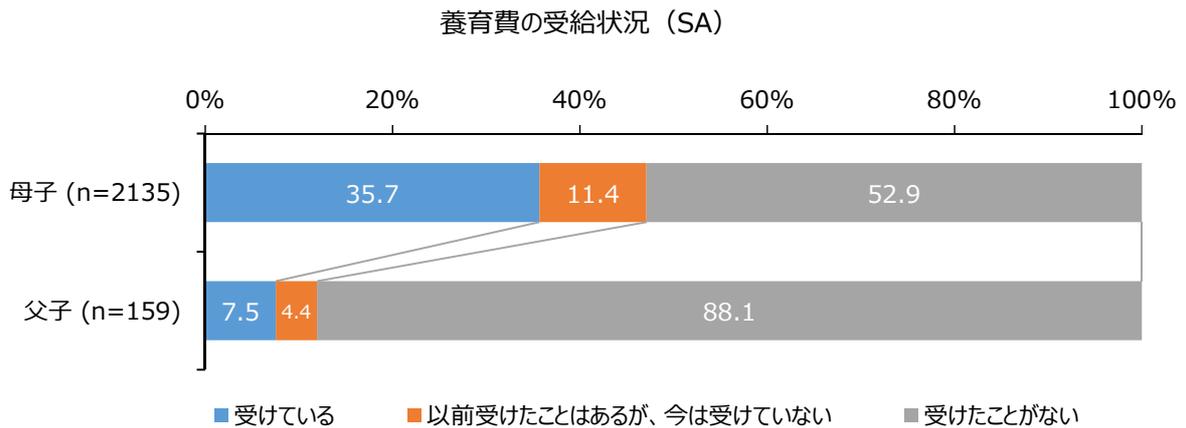


8 養育費の状況

(1) 養育費の月額等

問) 離婚した配偶者から養育費の支払いを月平均でいくら受けていますか。(離婚された方で、20歳未満のお子さんがある方のみ回答)

養育費を受けている方は、母子世帯で35.7%、父子世帯で7.5%にとどまっております。その月額は、母子世帯では「3～6万円未満」(51.2%)、父子世帯では「3万円未満」(66.7%)が最も多くなっています。



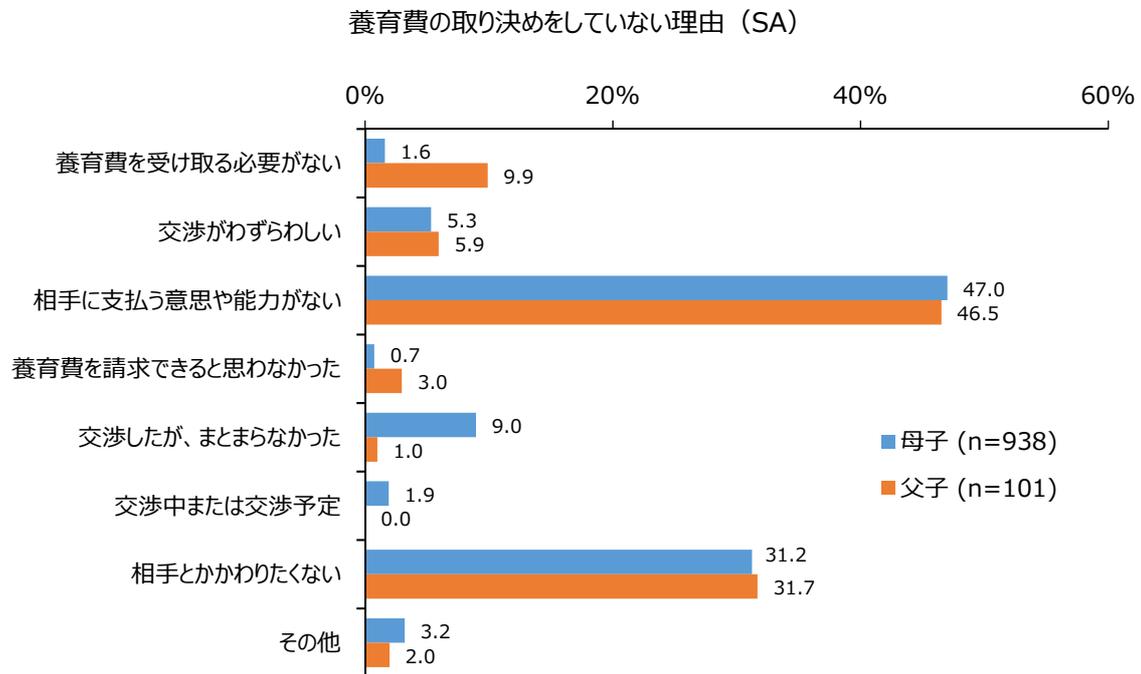
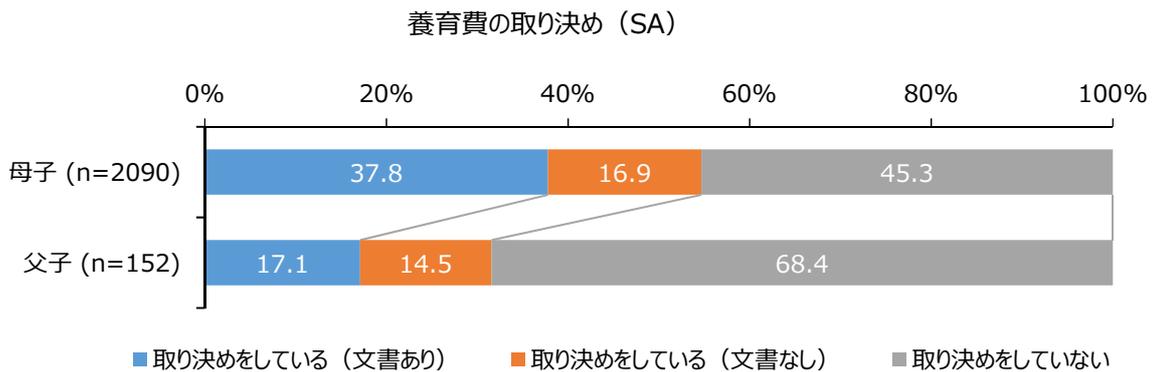
(2) 養育費の取り決め状況

問) 養育費の取り決めをしていますか。

「取り決めをしていない」とお答えの方は、その主な理由は何ですか。

養育費の取り決めをしている方（「取り決めをしている（文書あり）」、「取り決めをしている（文書なし）」の合計の割合は、母子世帯で54.7%、父子世帯では31.6%となっている。

取り決めをしていない場合の理由として、両世帯区分ともに「相手に支払う意思や能力がない」（母子世帯47.0%、父子世帯46.5%）が最も多く、次いで「相手とかかわりたくない」（母子世帯31.2%、父子世帯31.7%）となっている。父子世帯では「養育費を受け取る必要がない」（9.9%）の割合が母子世帯と比べて高くなっている。



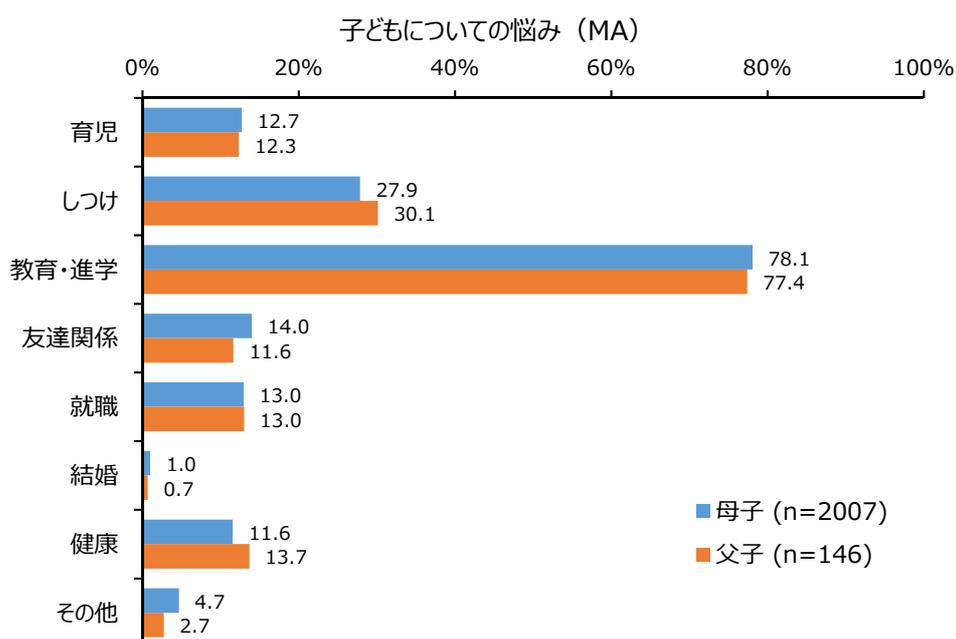
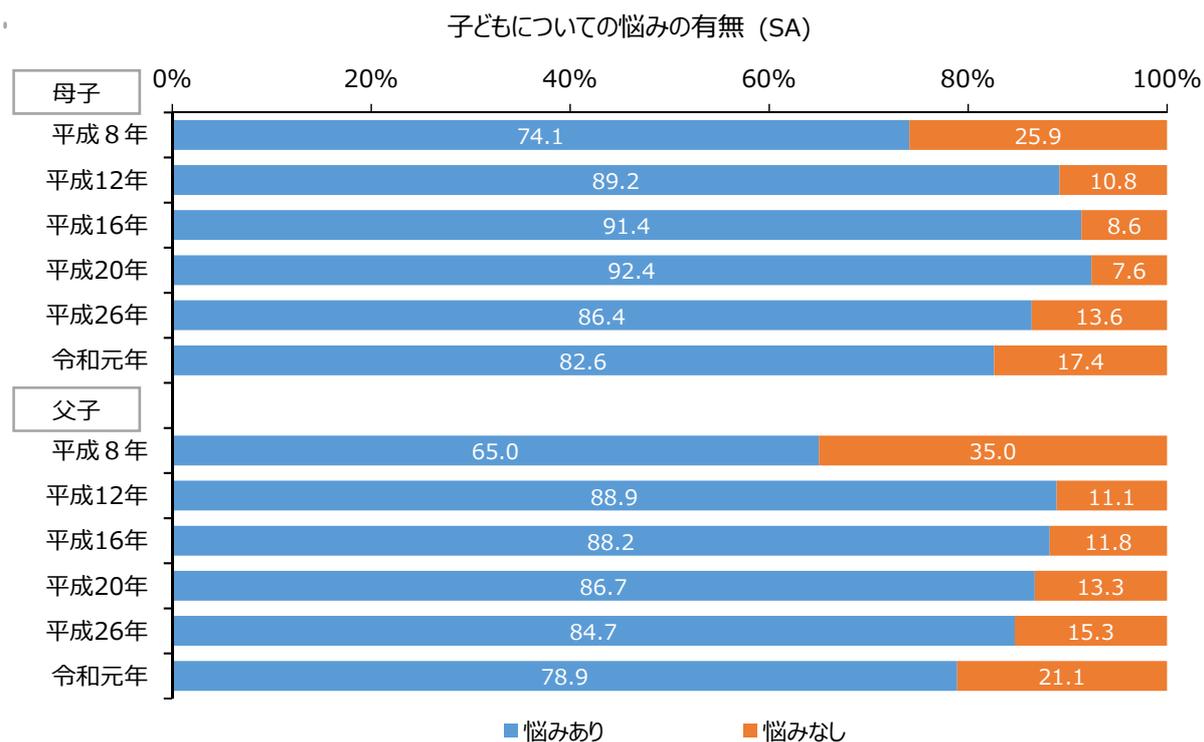
9 子どもの養育・教育

(1) 子どもについての悩み

問) お子さんのことで悩みごとはなんですか。(2つ以内)

両世帯区分ともに、8割程度(母子世帯82.6%、父子世帯78.9%)が、子どもについての悩みがあると回答している。

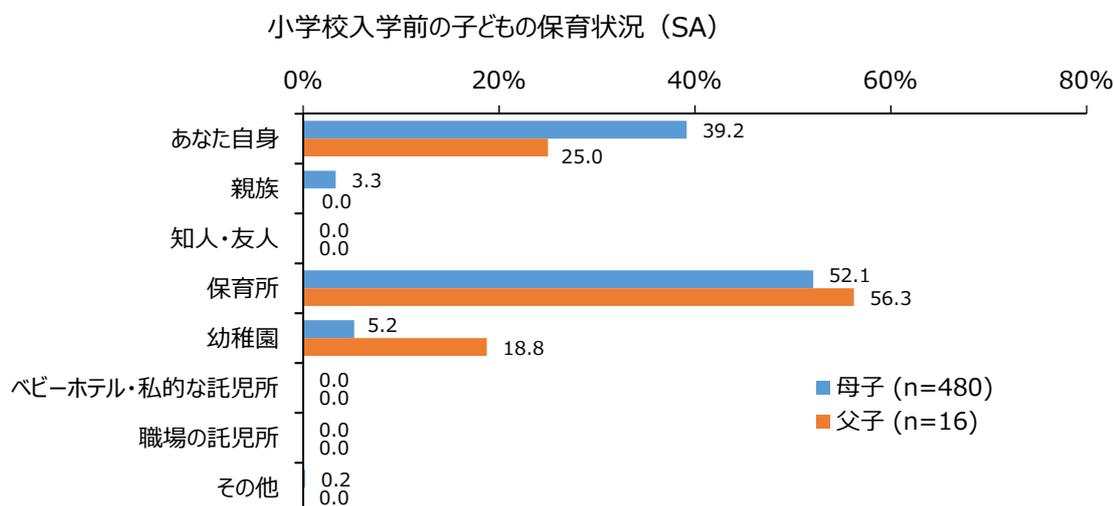
悩みごとの内容は、両世帯区分ともに「教育・進学」(母子世帯78.1%、父子世帯77.4%)が8割程度と最も多く、次いで「しつけ」(母子世帯27.9%、父子世帯30.1%)となっている。



(2) 小学校入学前の子どもの保育状況

問) 小学校入学前のお子さんの保育は主にどなたがしますか。(小学校入学前のお子さんがある方のみ回答)

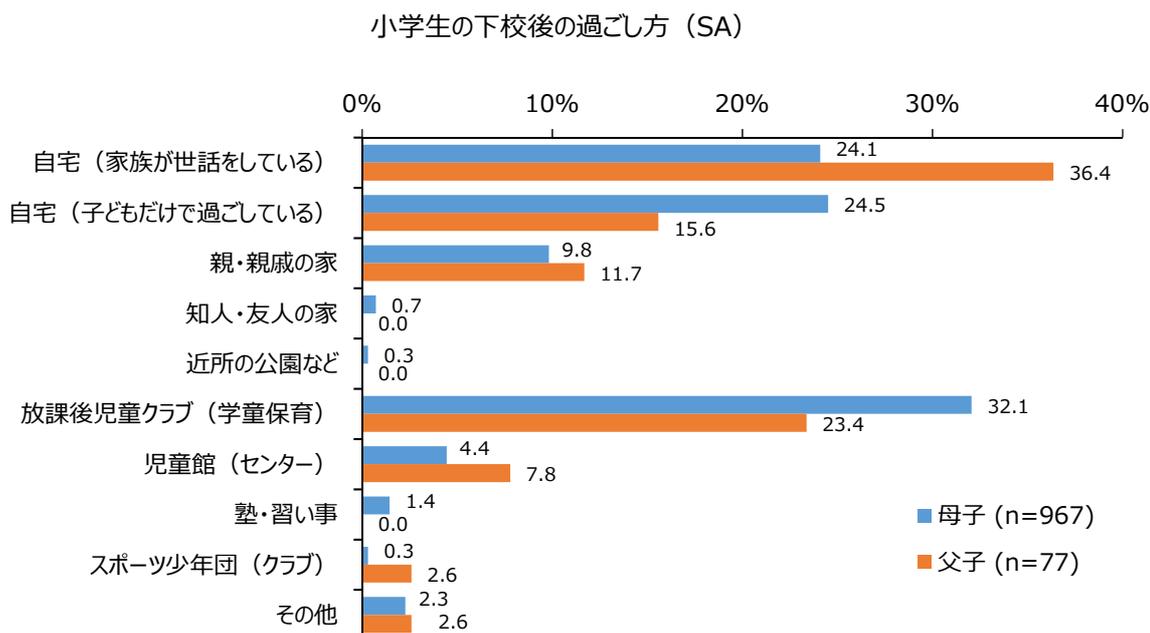
両世帯区分ともに「保育所」(母子世帯 52.1%、父子世帯 56.3%) が最も多く、次いで「あなた自身」(母子世帯 39.2%、父子世帯 25.0%) が多くなっている。



(3) 小学生の下校後の過ごし方

問) あなたが仕事などで家を留守にしている場合、お子さんは放課後主にどこで過ごしていますか。(小学生のお子さんがある方のみ回答)

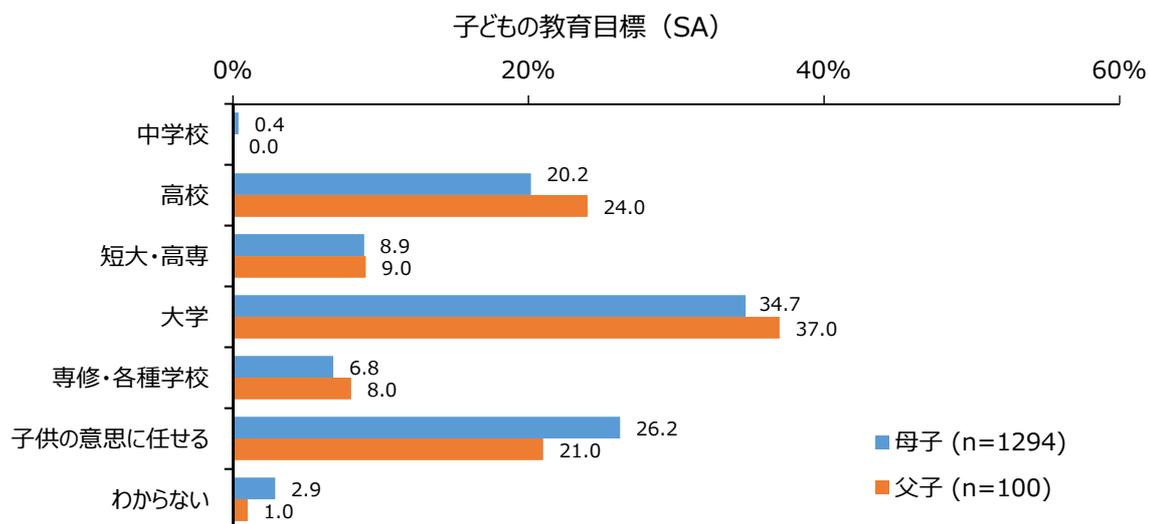
母子世帯は「放課後児童クラブ(学童保育)」(32.1%)が最も多く、次いで「自宅(子どもだけで過ごしている)」(24.5%)となっている。父子世帯は「自宅(家族が世話をしている)」(36.4%)が最も多く、次いで、「放課後児童クラブ(学童保育)」(23.4%)となっている。母子世帯、父子世帯ともに自宅が多いが、母子世帯は子どもだけで過ごしている方が多く、父子世帯は家族が世話をしている方が多くなっている。



(4) 子どもの教育目標

問) お子さんへはどの程度まで教育を受けさせたいと思いますか。(中学校卒業前までのお子さんがいる方のみ回答)

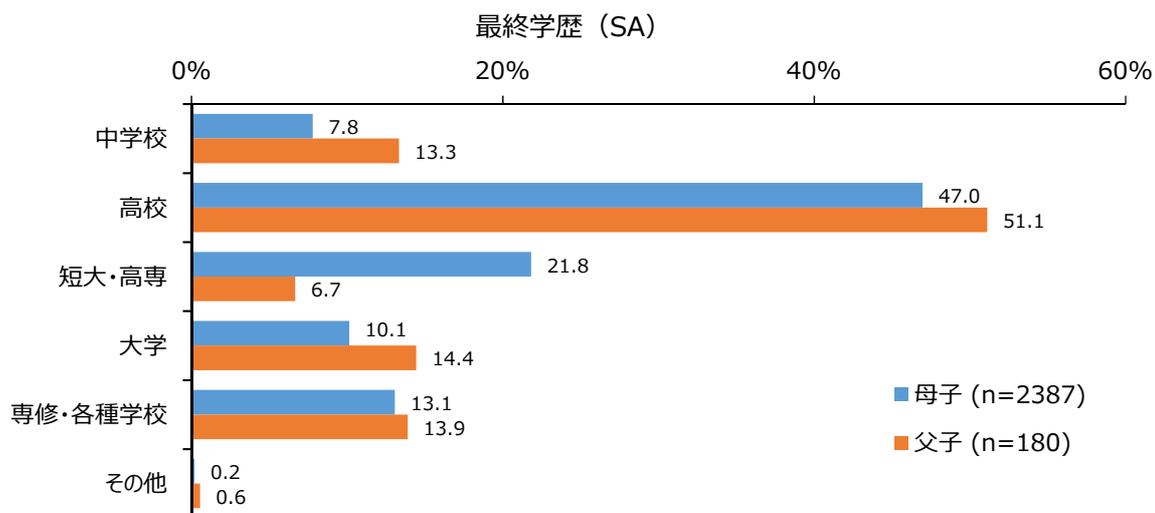
両世帯区分ともに「大学」(母子世帯 34.7%、父子世帯 37.0%) が最も多くなっており、次いで母子世帯では「子どもの意思に任せる」(26.2%)、父子世帯では「高校」(24.0%) となっている。



(5) 最終学歴

問) あなたの最終学歴であてはまるものはどれですか。

両世帯区分で「高校」(母子世帯 47.0%、父子世帯 51.1%) が最も多く 5 割程度を占め、次いで、母子世帯は「短大・高専」(21.8%)、父子世帯は「大学」(14.4%) の割合が高くなっている。



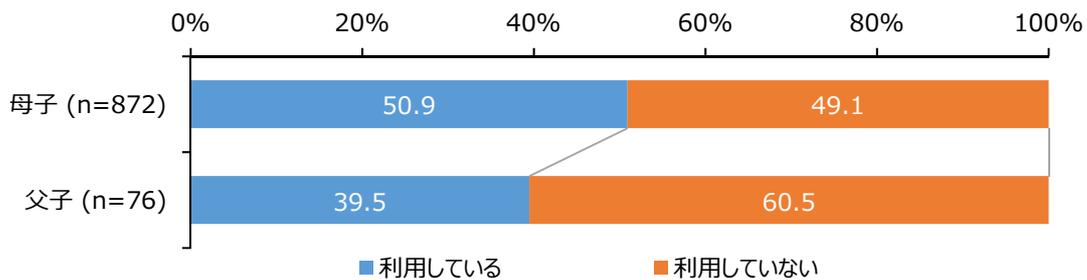
(6) 子ども（高校、短大・大学生及びその他の学生）の教育費

問) お子さんの教育費として利用しているものがありますか。(2つ以内)(高校生、短大・大学生、その他の学生のお子さんがいる方のみ回答)

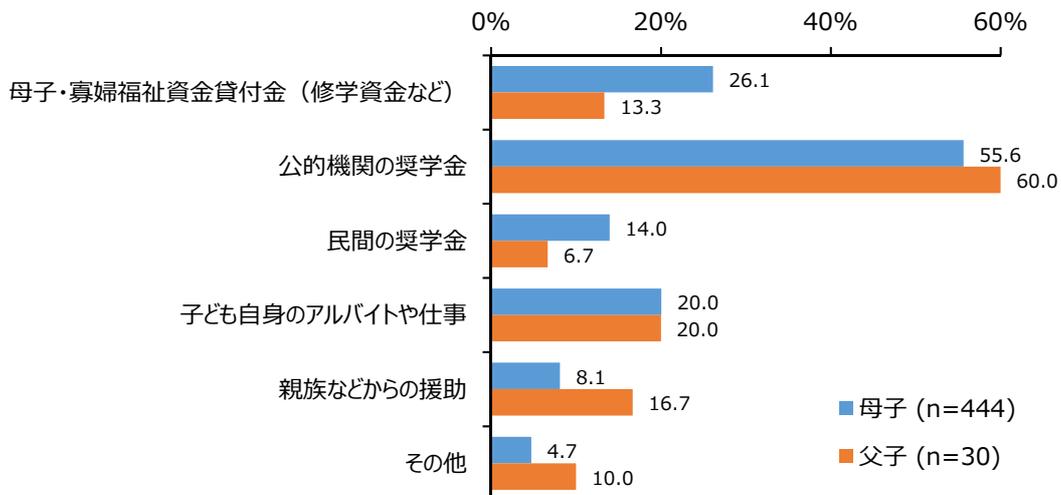
高校、短大・大学生及びその他の学生がいる世帯で、その子どもの教育費として利用しているものは、両世帯区分ともに、「公的機関の奨学金」(母子世帯 55.6%、父子世帯 60.0%)が最も多くなっている。

一方、「何も利用していない」も母子世帯で 49.1%、父子世帯で 60.5%みられる。

教育費として例示のものを何か利用しているか (SA)



高校生、短大・大学生、その他の学生の教育費として利用しているもの (MA)



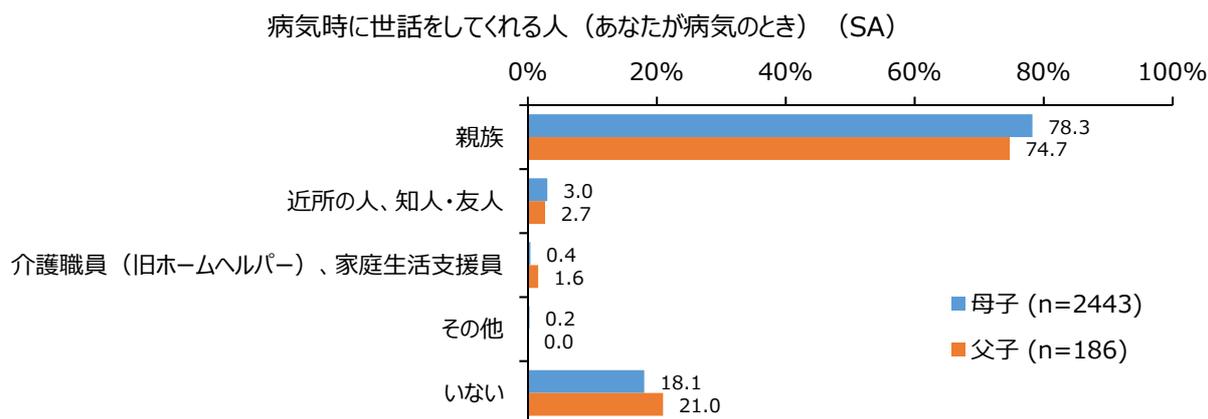
1 0 悩み・相談相手等

(1) 病気に時世話をしてくれる人

問) 病気などで一時的に介護が必要になったとき、身の回りの世話をしてくれる人はどなたですか。

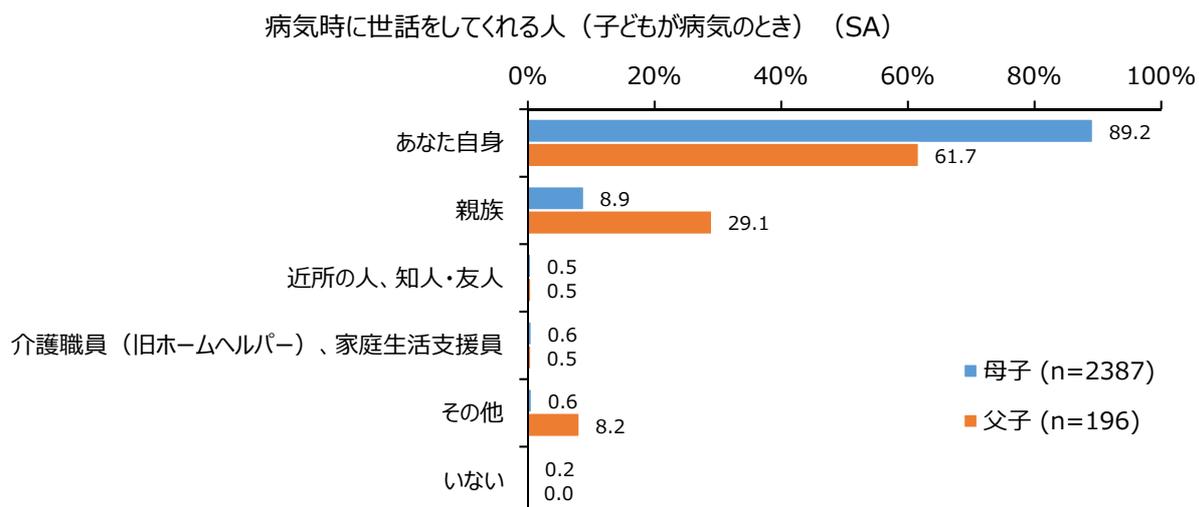
① あなたが病気するとき

両世帯区分で「親族」(母子世帯 78.3%、父子世帯 74.7%) が最も多くなっているが、「世話をしてくれる人がいない」方も母子世帯で 18.1%、父子世帯で 21.0%となっている。



② お子さんが病気するとき

母子世帯では、「あなた自身」(89.2%) が9割程度と多数を占めている。父子世帯では、「あなた自身」(61.7%) が最も多く、次いで「親族」(29.1%) が3割程度を占めている。

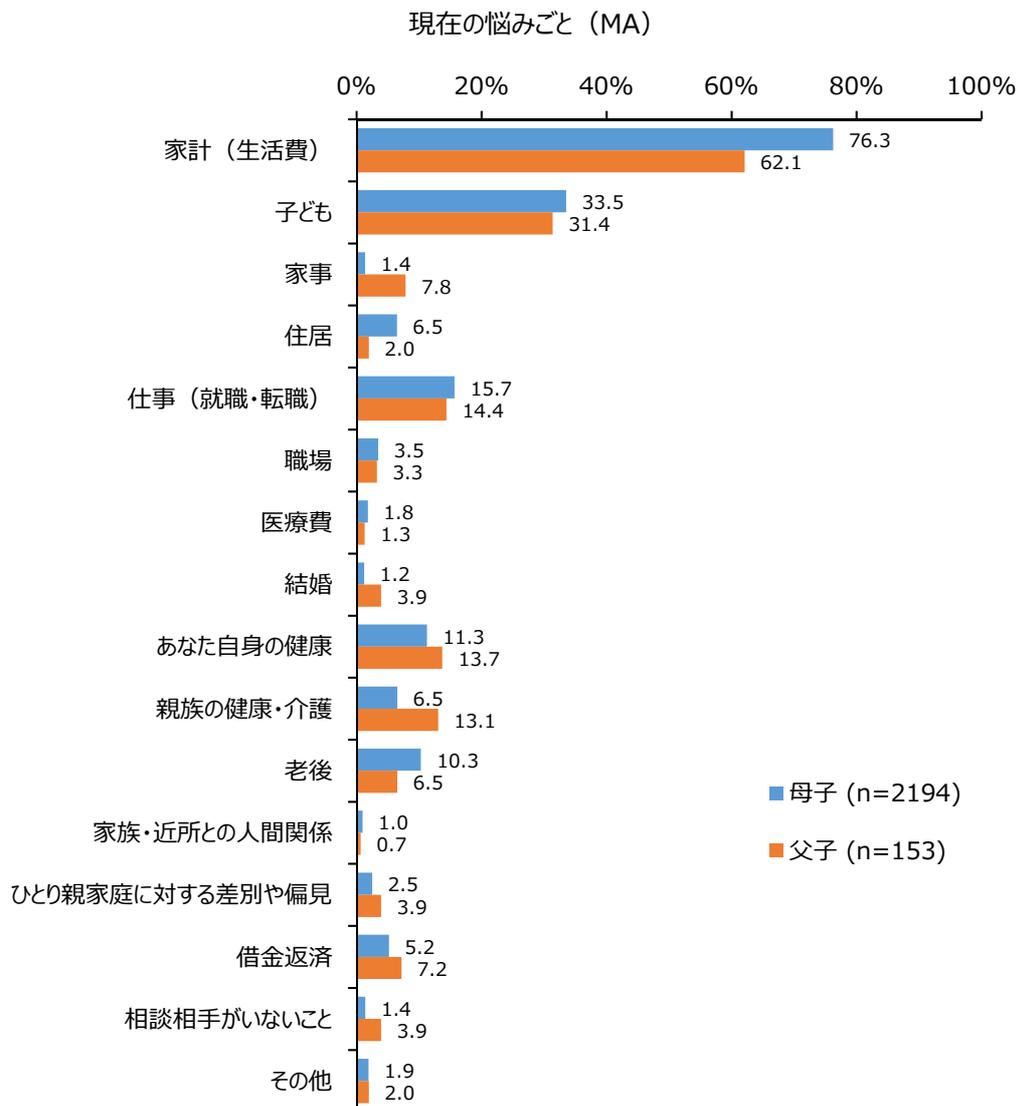
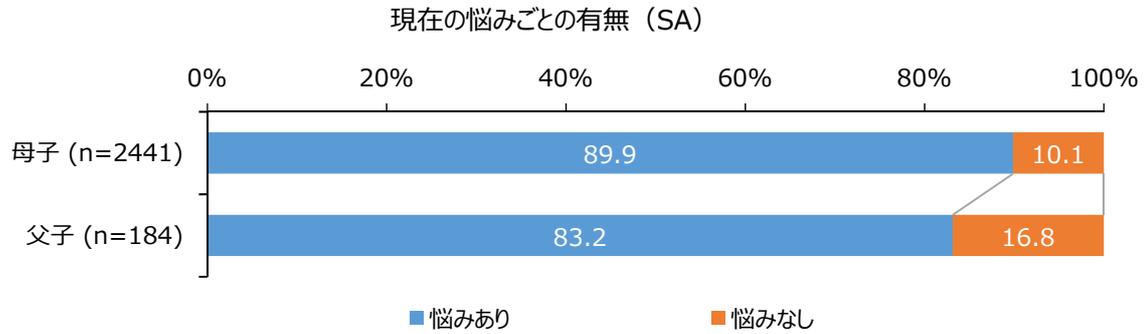


(2) 現在の悩みごと

問) あなたの現在の悩みごとはなんですか。(2つ以内)

両世帯区分の8割超(母子世帯89.9%、父子世帯83.2%)で、現在悩みがあると回答している。

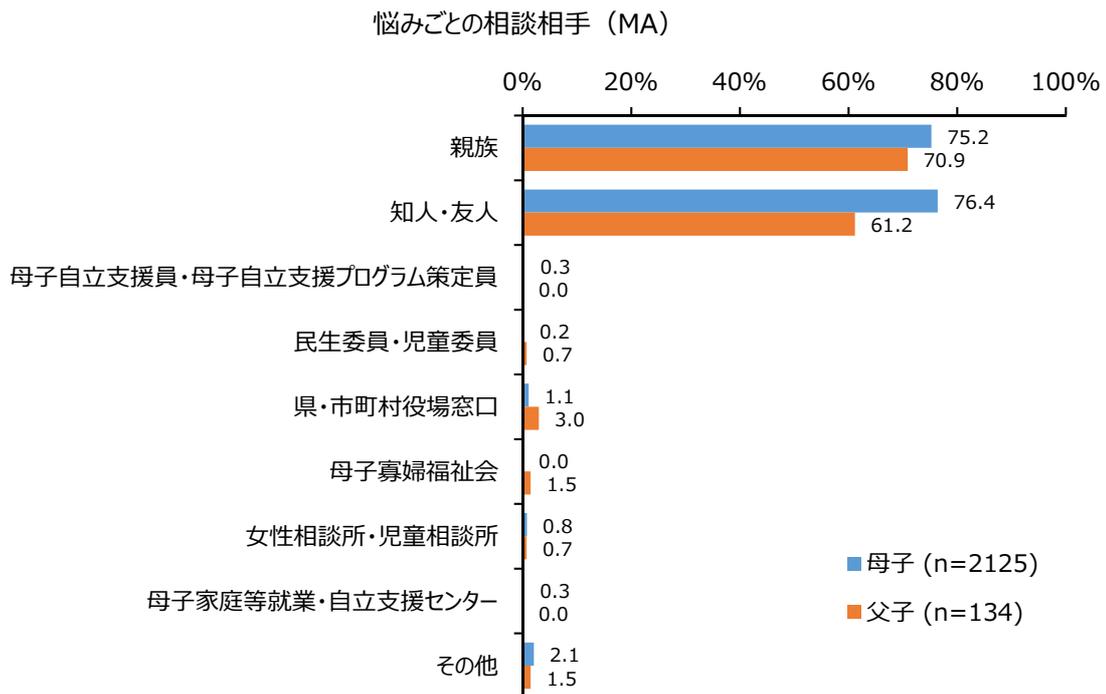
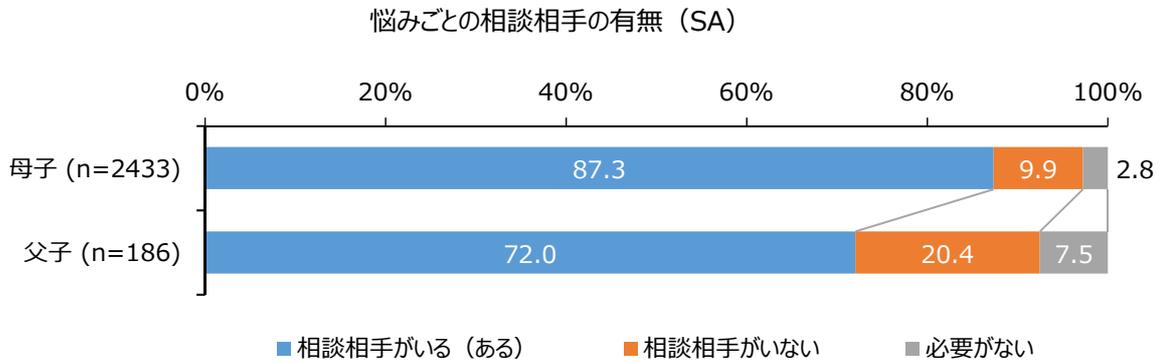
悩みごとの内容は、両世帯区分で「家計(生活費)」(母子世帯76.3%、父子世帯62.1%)が最も多くなっている。次いで「子ども」(母子世帯33.5%、父子世帯31.4%)となっている。



(3) 悩みごとの主な相談相手

問) 悩みごとの主な相談相手はどなたですか。(2つ以内)

母子世帯で9割程度(87.3%)、父子世帯で7割超(72.0%)が、相談相手がいると回答している。主な相談相手は、母子世帯では「知人・友人」(76.4%)が最も多く、父子世帯では「親族」(70.9%)が多くなっている。

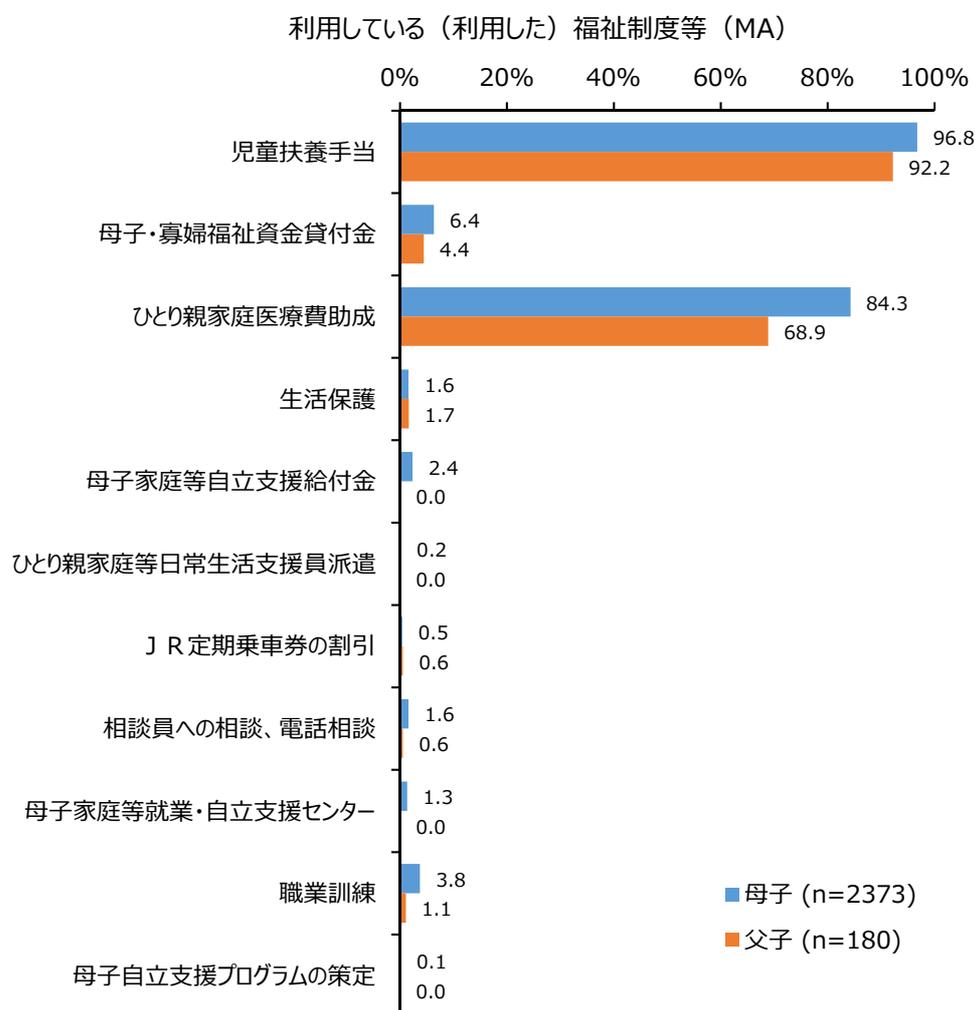
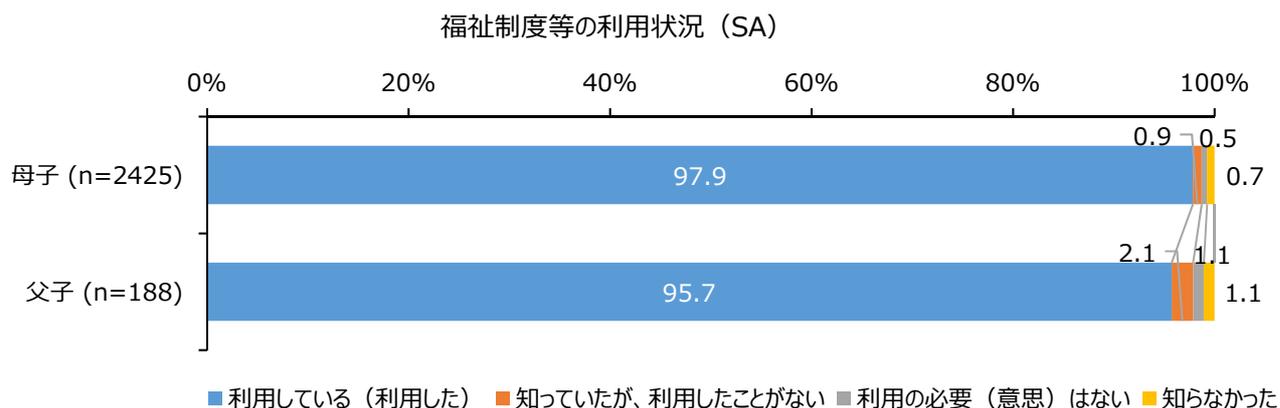


1 1 福祉制度等

(1) 福祉制度等の利用状況

問) あなたが利用している(利用した)福祉制度等は何ですか。(主なもの3つ以内)

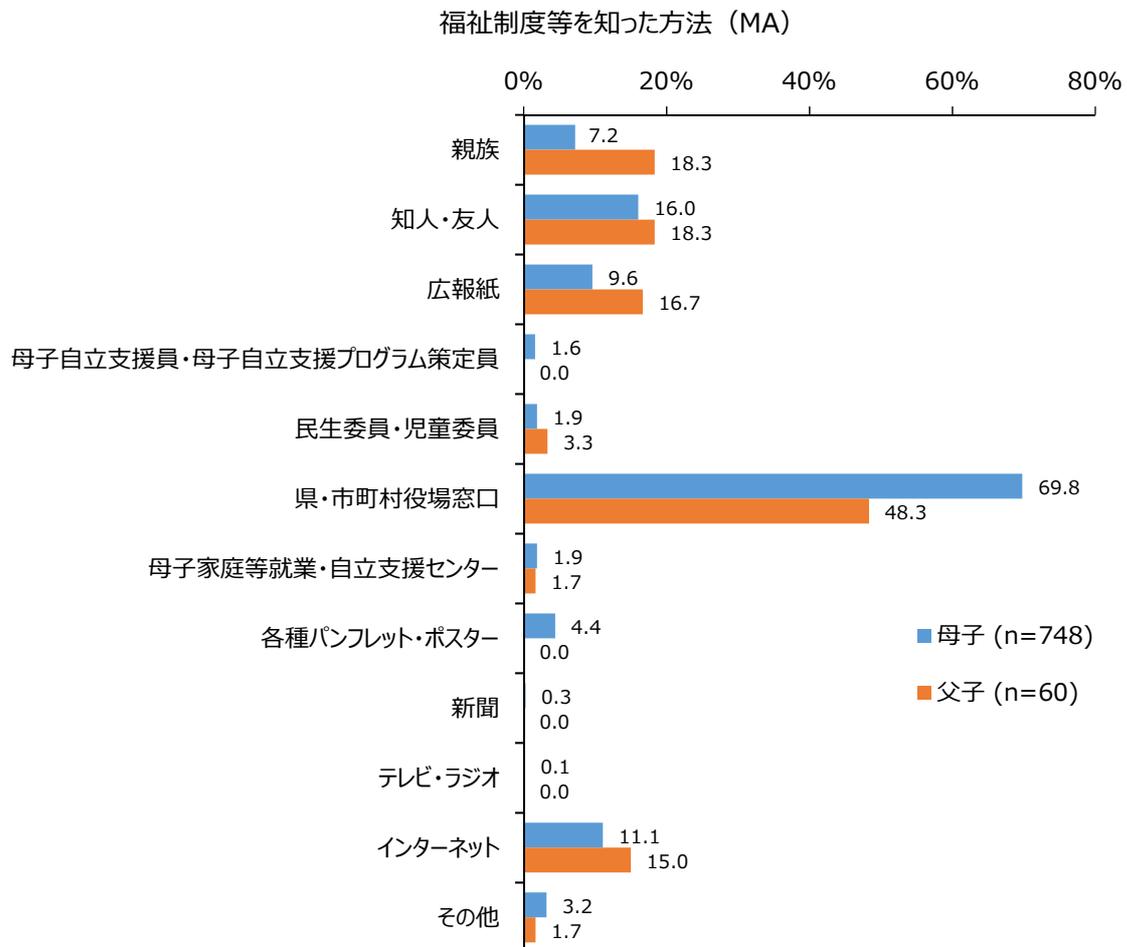
両世帯区分で福祉制度等を「利用している(利用した)」(母子世帯 97.9%、父子世帯 95.7%)が多数を占めている。利用している(利用した)福祉制度等は、両世帯区分で「児童扶養手当」(母子世帯 96.8%、父子世帯 92.2%)が最も多く、次いで「ひとり親家庭医療費助成」(母子世帯 84.3%、父子世帯 68.9%)となっている。



(2) 福祉制度等を知った方法

問) 福祉制度等をどのようにして知りましたか。(2つ以内) (11 (1) で知らなかった以外を回答した方のみ)

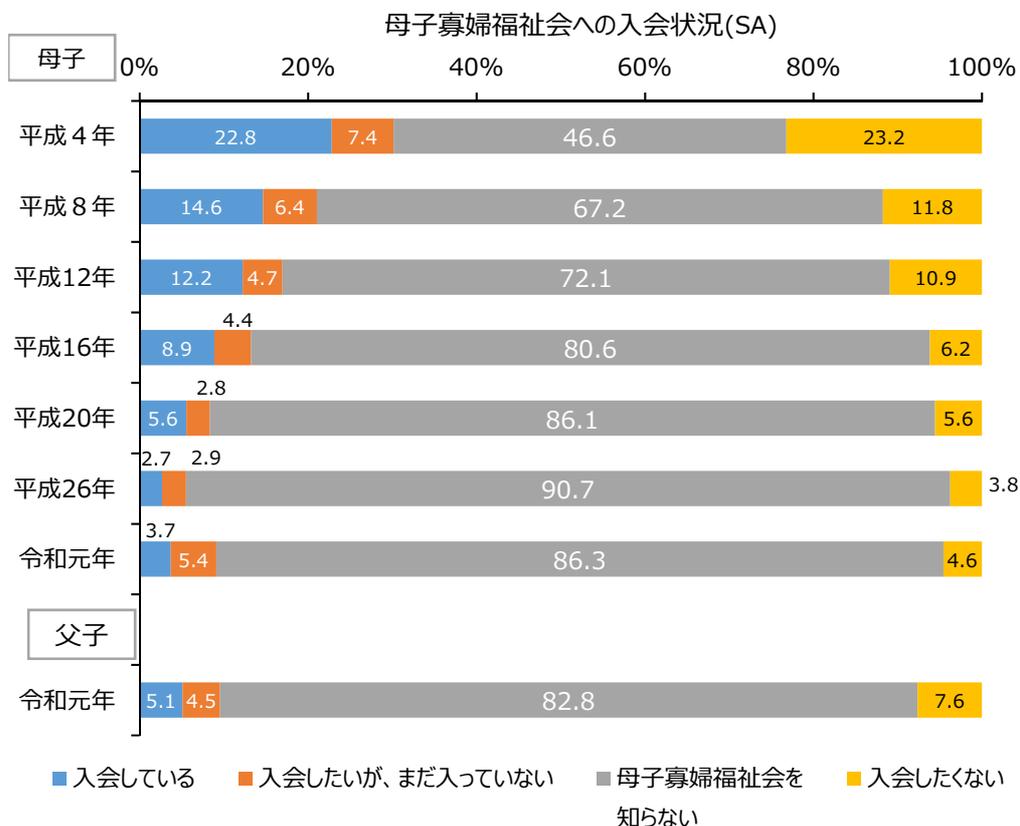
両世帯区分で「県・市町村役場窓口」(母子世帯 69.8%、父子世帯 48.3%) が最も多くなっており、次いで母子世帯では「知人・友人」(16.0%)、父子世帯では「親族」(18.3%)と「知人・友人」(18.3%) となっている。



(3) 母子寡婦福祉会への入会状況

問) 母子寡婦福祉会についてお答えください。(父子家庭の方も対象です)

母子世帯では「母子寡婦福祉会を知らない」(86.3%)が多数を占めている。一方で「入会している」(3.7%)は1割に満たないが、前回に比べると微増(+1.0ポイント)している。父子世帯は今回始めて調査対象とし、「入会している」(5.1%)は1割に満たなかった。



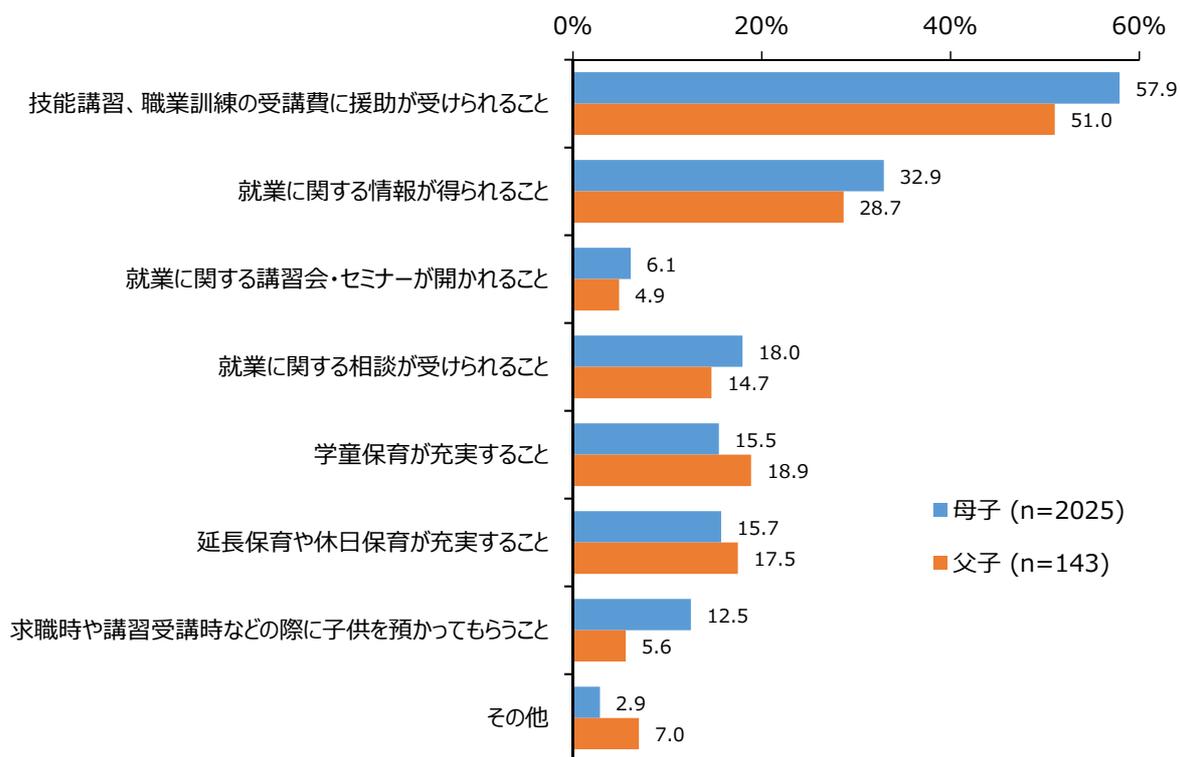
1 2 行政への要望等

(1) 県・市町村における就職・転職に関する支援事業への要望

問) 県・市町村において、就職・転職に関する支援事業を行う場合、どんなことを望みますか。(2つ以内)

両世帯区分で「技能講習、職業訓練の受講費に援助が受けられること」(母子世帯 57.9%、父子世帯 51.0%) が最も多く、次いで「就業に関する情報が得られること」(母子世帯 32.9%、父子世帯 28.7%) となっている。

県・市町村における就職・転職に関する支援事業への要望 (MA)



(2) 今後の福祉行政への要望

問) 今後の福祉行政にどんなことを望みますか。(3つ以内)

両世帯区分で「年金・手当などの充実」(母子世帯 39.4%、父子世帯 36.3%)、「医療費無料制度の拡充」(母子世帯 36.2%、父子世帯 27.4%)が多くなっている。

また、母子世帯では「母子家庭等の優先雇用の援助」(31.8%)が、父子世帯では「ひとり親家庭等日常生活支援事業の充実」(27.4%)が多くなっている。

今後の福祉行政への要望 (MA)

